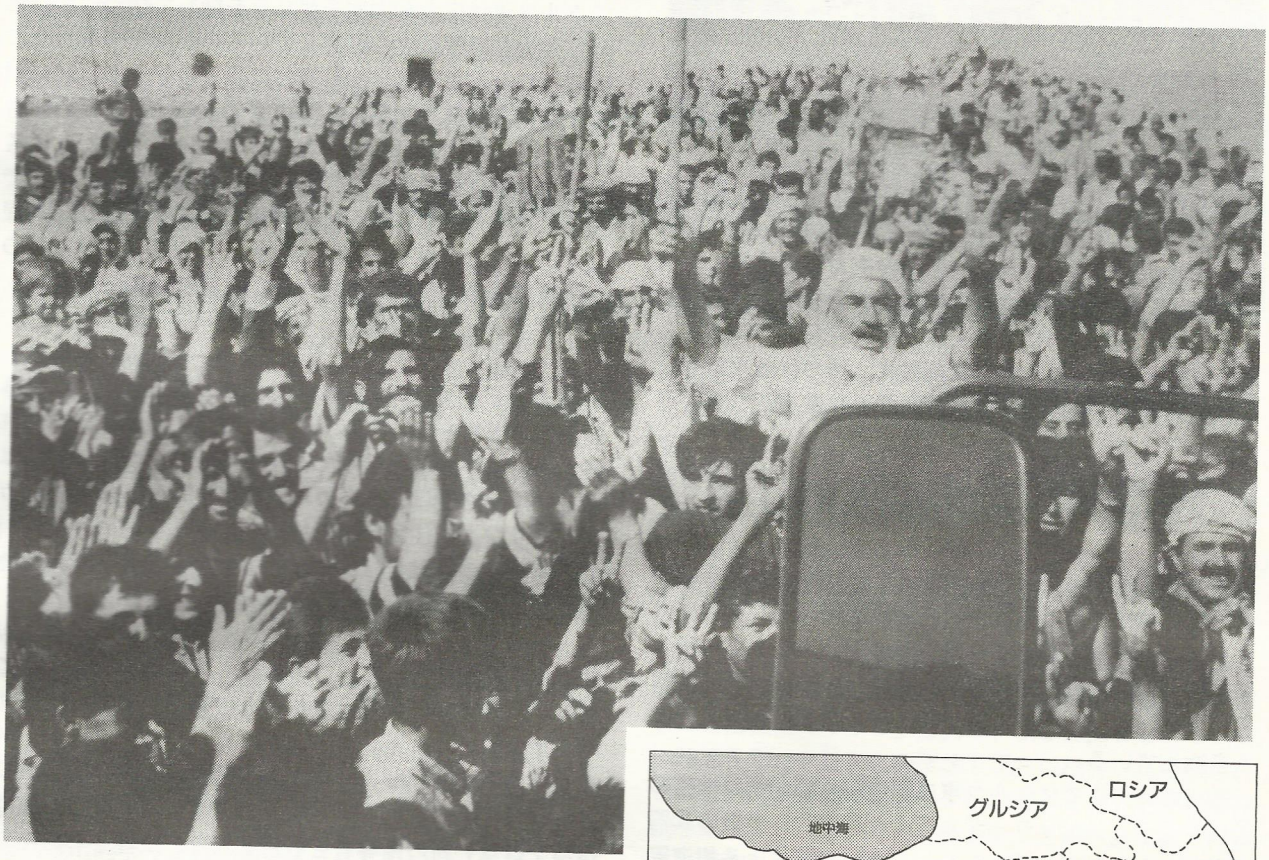
BURST CITY 1995.7.30 No.18
For Revolutionary Resistance
400円 A.R.P

ARP
P.O.Box57
Sakyo Kyoto
606, JAPAN
FAX +81/75-781-1253

クルディスタン民族解放闘争はトルコ軍の侵攻には屈しない



クルディスタン全図

《特集／クルディスタン解放闘争》

★トルコ軍の南クルディスタン（イラク北部）侵攻を迎え撃つＡＲＧＫ（クルディスタン人民解放軍）★クルディスタンをめぐる動き（1995年１～３月）★トルコの南クルディスタン侵攻に関するＰＫＫ（クルディスタン労働者党）総書記声明★恒久的和平を呼びかけるＰＫＫ総書記声明★ＰＫＫの歴史(1)★トルコ観光ボイコットを呼びかけるＡＲＧＫ声明★ＡＲＧＫ戦況報告★ＤＥＰ（民主党）国会議員への判決に関するＥＲＮＫ（クルディスタン民族解放戦線）声明★国際赤十字ジャネーブ会議へのＰＫＫのメッセージ★アムネスティ・レポートに関するＥＲＮＫ声明★アメリカ国務省のトルコ報告★ヨーロッパ在住クルド人声明★1994年トルコの人権侵害の実態★クルディスタンをめぐる動き（1994年８～12月）

3月20日、トルコ軍はザホ付近の国境3ヵ所を突破して南クルディスタン（イラク領北部）に侵攻した。戦車部隊、砲兵隊を含む3万5000人（クルド系通信社は約7万としている）の兵力であった。作戦内容は、国境から南へ40キロ以内の南クルディスタンに軍を展開し、ＰＫＫ（クルディスタン労働者党）ゲリラ（ＡＲＧＫ／クルディスタン人民解放軍）キャンプを掃討するものである。

トルコ側資料によると、ザホ付近から侵攻したトルコ軍は、最初にＡＲＧＫのキャンプがある国境地帯のカントス山脈南側の平野部に沿って軍を進め、その上で南と北から攻撃を行なった模様である。（2ページの図を参照）山岳地帯への進出は、ヘリコプターなどを使った兵員の移送によって行なわれた。当然の如く一般住民への無差別攻撃、クルド人難民の強制連行、村落の無差別爆撃が実施されている。

★戦闘の状況

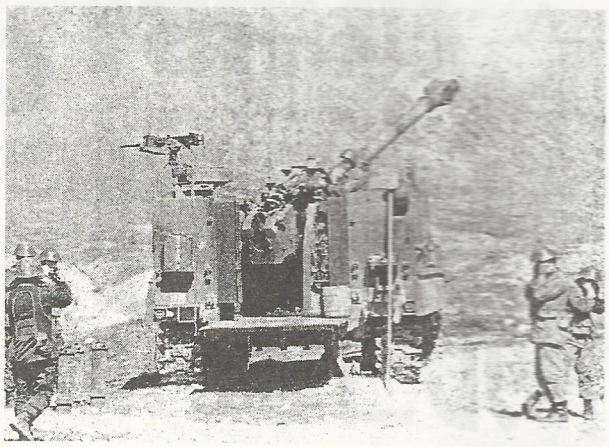
昨年より北クルディスタン（トルコ東南部）で非常に大規模なＰＫＫ掃討作戦を続けていたトルコ軍は、2月末から急速にイラクとの国境に兵力を移動し出した。この動きは、1992年10月に国境を越えて攻撃を行なった時と同様だったため、ＡＲＧＫ部隊の主力はあらかじめ南に移動しており、国境地帯では険しい山岳地帯に位置した。現地からの報告によると、まずＡＲＧＫはザホから東に展開を開始したトルコ軍部隊に、待ち伏せ攻撃やヒットエンドラン戦術をもって間断なく攻撃を行ない、進撃を遅らせた。

ザホから東のハフタニン向かう途中、ケンドラ峡谷一帯でトルコ軍は6回にわたる攻撃を受け、多くの兵士と車両を失っている。またＡＲＧＫによる夜襲は、トルコ兵士の士気を挫いてもいる。23日には地域作戦司令部がＡＲＧＫの攻撃により孤立し、機能を失った。30日にはインスクの駐屯地までも攻撃を受けている。ＡＲＧＫの発表によると、最初の一週間での味方の損害は、死亡17人、負傷10人であるのに比べて、トルコ軍の損害は 300人を数えている。

29日の時点までにトルコ軍は国境から幅40キロ地帯の占領を完了し、ゲリラ 300人近くを殺害し、多数の兵器を押収したとしている。しかし、トルコ軍による報道管制にも関わらず、作戦の成果が上がっていないことは、一般マスコミでも知るところとなる。何百人も殺したはずのゲリラの死体の写真はなく、盛大に公開された押収兵器とはＰＵＫ（クルディスタン愛国同盟）の村（デカラ村）から押収した武器であったり、ＫＤＰ（クルディスタン民主党）からの借用であった。

国境近くの町ザホに展開するトルコ軍戦車部隊

山岳地帯を砲撃するトルコ軍部隊



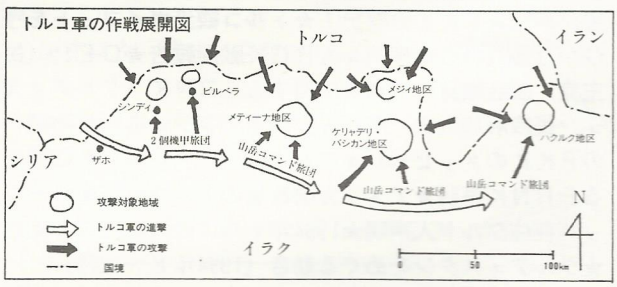
トルコ軍は広大な大地をゲリラを探して彷徨い、時として強力な反撃に立ち往生しているのが現実であった。困惑するトルコ軍は、4月3日にはＫＤＰとＰＵＫに対して協力を要請したが、トルコ軍による一般住民の殺害や虐待を理由に受け入れられてはいない。（ただし、ＫＤＰは戦闘には参加せずとも協力の姿勢は保った模様である）。4月23日には、山岳地帯の東部メジで 150人程度のゲリラを発見し、5000人の動員で攻撃をかけた!?のが侵攻以来最大規模の戦闘だという実態なのである。

★トルコ軍による住民への攻撃

南クルディスタンに侵攻したトルコ軍は、直ちに村落の無差別爆撃を開始した。爆撃は相当広範囲に行なわれ、多くの村人が難民となった。ハジル～ザップ間の地域は激しい爆撃を受け、デルカル、デブゲルリ、ホリナ、ガレ、シリなどの住民は村を捨てた。オルケでの住宅に対する航空機の銃撃では、6才の少女が死亡し、6人が負傷している。

トルコ軍は、ザホ近くのアトラシュ難民キャンプを包囲して住民を連行した。この人たちは行方不明となっており、トルコ領内に連行されたとの観測もある。ヒルザヤ、ケラ、デルカル、ティケバルなどでも北クルディスタンからの難民がおよそ 100人逮捕され、内7人がトルコに連行された。エレディナン村では、トルコ軍が家宅捜索を行ない村の指導者を虐待したり、女性を辱めた。村の羊飼いは撲殺されている。地方だけでなく、トルコ軍の駐屯する都市ザホでも、ＰＵＫ支持者の家が捜索の上に破壊され連行されている。トルコ軍が戦闘で多数の損害を出したケサン丘陵では、地域住民が集められ1人が殺害され、数人が連行された。

トルコ軍は、北クルディスタンで日々行なっているの



と全く同じ方法で一般住民を攻撃し、殺害している。前記の具体例は、ほんの一部でしかない。トルコ軍が殺したと発表するゲリラの数には、それら一般住民が必ず数えられているのである。

★国際社会の反応と動き

トルコ軍のイラク領（南クルディスタン）侵攻に対して、3月23日、現地の国連高等弁務官事務所（UNHCR）と国際赤十字委員会は、クルド人難民の強制連行と一般住民への攻撃を報告して懸念を表明した。ドイツとフランスも直ちに「国際法違反」だとするなど、西側諸国からの非難が相次いだ。これに比してアメリカは、侵攻と同時に国連保護地域である南クルディスタン北部での警戒飛行を中止してトルコ軍を支援した。またクリントン大統領は、トルコの行動に理解を示した。

3月29日になって、ドイツ政府は戦車46両を含む武器輸出を全面停止し、合わせて95億円以上の軍事援助を停止することを発表した。また4月3日には、ドイツを訪問したトルコ外相イノニュに対して、ドイツ外相キンケルは、早期撤退とクルド人の人権尊重を要請した。

EU（欧州連合）の外相理事会は、4月10日に、トルコ政府に対しイラク北部から全兵力を直ちに撤退させるよう求める声明を採択している。欧州議会総会も26日にトルコの会議への参加資格の一時停止を採択した。

こうした西側諸国の圧力はトルコの予想を越えたものでもあったようで、期間を区切った作戦であると言う一方、国境地帯の長期占領もしくは軍事拠点の設置をもくろんでいたトルコは、成果を上げられないまま撤退することとなるのである。

主にトルコから難民あるいは移民としてヨーロッパ諸国に居住するクルド人を、PKKはERNK（クルディスタン民族解放戦線）の下に組織している。トルコ軍の侵攻に対して、ヨーロッパ各地で抗議行動が組織されたのは言うまでもない。ERNKは、大衆運動ばかりでなく、各国の政党や議会また欧州議会への働きかけに力を入れている。トルコのクルド人への人権侵害を訴え、クルド人の権利を獲得するための政治的攻勢である。今回の侵攻に対して欧州各国が圧力をかけた背景には、こうした政治的積み重ねが着実に存在していることが上げられる。すでにヨーロッパレベルでは、クルド問題は大きな問題となっており、無視できなくなっているのである。

トルコ軍の侵攻の最中の4月12日、オランダのハーグでクルディスタン亡命議会が設立された。これは、分離主義を理由にトルコからの亡命を余儀なくされたトルコのクルド人元国会議員らが中心となるもので、将来のクルディスタン独立を踏まえた民族議会である。これに対してトルコは執拗に圧力をかけており、オランダ政府に対して設立を許可しないよう求めていた。しかしオランダ政府は、憲法の認める集会の自由を盾に、これを受け付けなかった。議会の設立は、政治的進展の上で非常に重要な成果であった。

★トルコの姿勢と西側の支援が解決を阻害

PKKのゲリラ部隊

4月25日にトルコは2万3000人の兵力を撤退させ、続いて5月4日には完全撤退した。侵攻以来ゲリラに与えた損害は、トルコ領内で 333人、イラク領内で 505人と発表されている。しかしながら成果なき侵攻であったことは明白であり、トルコ首相チルレルはたびたび再侵攻をほのめかし、7月5日には実際に国境を越えて軍事侵攻を行なった。トルコが、南クルディスタンの北部をコントロールしたがっているのは、明らかであろう。

湾岸戦争の結果、南クルディスタン北部（イラク北部）が国連の保護下に置かれて以来、この地域はクルド人自治区としてPUKとKDPがコントロールしている。両組織ともトルコに代表部を置くなど、トルコとの関係は深いが、PKKもこの地域で活動を続けている。ARGKは自治区内にキャンプを持ち、出撃拠点ともしている。一時悪化したPUKとの関係も現在は維持されており、この自治区がクルディスタン解放闘争において重要な役割を果たしているのは事実である。このために、トルコは軍事的にもこの地域を押さえたがっているわけである。

トルコ軍による北クルディスタンでの日常的な住民虐殺や無差別爆撃のために、自治区にトルコ側から流入するクルド人難民は増えつづける一方である。問題の解決は、政治的交渉を拒否して軍事力によってクルド人の権利を押さえ続けるトルコ政府の姿勢にかかっている。そのうえで、西側諸国によるトルコへの軍事的、経済的支援がクルド問題の解決を困難としている。侵攻の最中の4月10日、PKKのオジャラン総書記は声明を発表して問題の政治的解決を求める姿勢を再度明らかにし、また西側諸国とりわけドイツがそのために果たすべき努力を指摘した。こうしたPKKの姿勢は首尾一貫したものであり、国際的に政治的解決の道が開かれることが期待されている。

（編集部）

クルディスタンをめぐる動き(1995年1月～3月)

★テレビ局開設を計画

ＰＫＫ（クルディスタン労働者党）は、独自のテレビ局を設置し放送を開始するべく準備を進めている。ＭＥＤ－ＴＶと名付けられたこの局は、イギリスから衛星を使って欧州・中東地域での受信を行なうもので、今年前半には放送を開始する予定。

★南クルディスタンの自治区で内戦

国連保護下の南クルディスタン北部（イラク領）の自治区を管理するクルディスタン愛国同盟（ＰＵＫ／ジャラル・タラバニが指導）とクルディスタン民主党（ＫＤＰ／マスード・バルザーニが指導）の間で、昨年の12月13日から始まった軍事衝突は、ＰＵＫに有利に展開している。１月始めには、ザリザン－ガリサン間の道路で、ＫＤＰに支援されたイスラム革命党のメンバーが、ＰＵＫ部隊の待ち伏せ攻撃に遭遇し、60人が死亡。また、地理的な要衝、エルビルの支配権をめぐる激戦では、下旬にＰＵＫが勝利し、エルビルを支配下に置いた。

★ドイツ・トルコに軍事援助を追加

ドイツ政府は１月25日、湾岸戦争でのトルコ政府との約定にもとづき、さらなる軍事援助を送ることを決定した。今回送られるのは、5200万マルク（約36億4000万円）相当の装甲車、ゴム・ボート、救護車、スペアパーツなどの軍需物資である。これは、1990年に両政府が交わした協約に基づいた軍事援助であり、装備品のみの援助額だけでも15億マルク（約1050億円）である。野党である社会民主党（ＳＰＤ）などは、これらの武器がクルド人弾圧に使用されていることを理由に反対しているが、これを無視しての実施となった。

★ミッテラン夫人、トルコのクルド人弾圧に言及

１月27日、フランスの人権団体「フランセ・リベルテ」は、クルド人弾圧に関する報告を発表した。この団体に所属するダニエレ・ミッテラン（元フランス大統領夫人）は、その発表に際して、トルコ国家によるクルド人大虐殺を告発し、合わせてイランとイラクのクルド人虐待を非難した。131ページにおよぶこの報告書では、無差別殺害、拷問、家屋の破壊などの抑圧状況について述べており、その結果、トルコやイランから、イラク領内の国連保護区に難民が流入していることを指摘している。ミッテラン夫人は、1989年からクルド問題に関わり出し、1992年の南クルディスタン（イラク領）訪問時には、爆破攻撃から危うく難を逃れたこともある。

★アメリカ、イラク・クルド２組織と接触

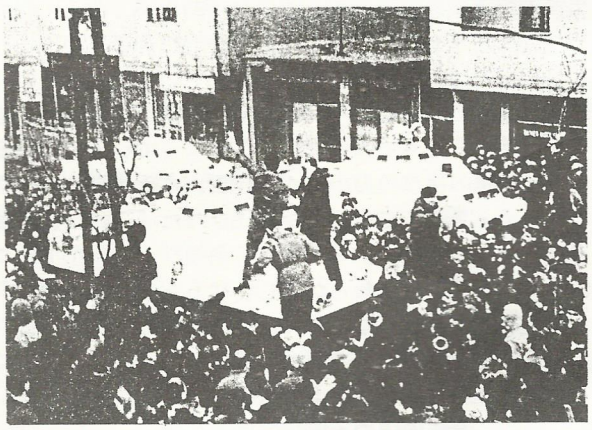
イラク国営放送の報道によると、１月下旬、アメリカのトルコ代表部は、南クルディスタン（イラク領）のクルド人組織、ＫＤＰ、ＰＵＫと接触を開始した。すでにトルコ政府も、この２組織との接触を行なっている。ＫＤＰとＰＵＫは、かつて、トルコ軍による空爆の停止と引き換えに、ＰＫＫを襲撃したことがある。

★重傷のクルド人青年、病院から投獄される

昨年の夏、クルディスタン解放闘争で、両足と手の指を失ったクルド人青年が、治療中のドイツの病院で逮捕され投獄された。彼は、クルディスタンで生まれ、若い時にドイツに渡った。そこで彼はＰＫＫに参加し、４年後には母国へ帰りゲリラ戦士として山に入ったのである。クルディスタンの山岳地帯の冬は非常に過酷であり、彼は手と足に凍傷を受けた。しかし、戦闘地域なので満足な治療を受けることが出来ない。仲間の尽力によって、どうにか数カ月後には、ドイツに治療のために入ることが出来た。彼は、ドイツ在住のクルド人たちに、山での闘いについて語り、立ち上がるよう呼びかけた。これを理由に、ドイツ連邦検察局は、彼をＰＫＫのヨーロッパ指導部のメンバーだとして逮捕したのである。獄中では、他の囚人たちから隔離され、新聞や本もなく、面会は一ヶ月に一回だけという弾圧を受けている。彼は、処遇の改善と治療を求めて、監房に火をつけて抵抗した。しかし、１月中旬、彼は他の３人とともに起訴されたのである。裁判の結審まで、彼が生きていられるという保証はない。

★『オズギュル・ユルケ』閉鎖される

トルコのクルド系日刊紙『オズギュル・ユルケ』が、２月３日に閉鎖され、新聞の発行が禁止された。この処分は、イスタンブールの司法裁判所によって下されたもので、１月５日の国家安全保障調整委員会の決定を受けたものである。昨年４月に閉鎖された『オズギュル・ギュンデム』の後継紙として発行された同紙は、当初からトルコ政府の弾圧にさらされた。暗殺、誘拐、押収とい



イスタンブール・ガジ地区での民衆暴動（３月12日）
装甲車の阻止線に肉薄するデモ隊
この地区の住民は、クルディスタン解放闘争との関係が深い。／記事は６ページ

ったあらゆる手段が用いられたのである。昨年11月30日にトルコ首相チルレルが関連政府機関に送った秘密指令では、同紙は抹殺の対象とされた。これを受けて、12月3日、インタンブールの4階建ての印刷所と編集局、アンカラの事務所が爆破され、続いて各地の事務所が捜索を受けている。1月6日には新聞全てが警官に奪われ、検閲を強制され、5人の記者が拷問を受けた。同紙に対する検閲は厳重を極め、人権に関する3～4ページは、しばしば白紙で発行され、同じ新聞が3回検閲を受けたこともある。発足以来、20人の記者が殺害され、4人が誘拐され、35人が投獄、238号が押収された。

★米国務省報告書、トルコの人権抑圧を指摘

アメリカ国務省は、2月1日、トルコの人権抑圧に関する36ページの報告書を発表した。同報告は「拷問を止め、人権の尊重に基づく法の確立との1993年のトルコ政府の誓約にも関わらず、治安要員による拷問と過度の権力行使は、1994年を通じて継続した」としている。また、行方不明、村落の強制立ち退きと焼き討ち、言論の自由の侵害、民衆・ジャーナリスト・人権活動家への抑圧について指摘した。一方、トルコ外務省スポークスマンは3日、「報告書は一方の立場に立つもので、偏っている。ほとんどは、単純な確証のない申し立てだ」と非難した。しかしながら、今後も人権の向上を続けることを付け加えている。

★アムネスティ、トルコの人権抑圧に関する報告書を発表

2月8日、アムネスティ・インターナショナルは、トルコの人権侵害に関する27ページの報告書を発表した。この報告書によると、トルコ全土で拷問が続けられており、その結果1994年の最初の10ヶ月間で29人が死亡した。財布を盗んだ13歳の少年が、目隠しされて殴打され、さらに電気ショックを与えられた例まである。クルディスタンでの村落破壊や強制追い出しは依然として続き、拘禁され、行方不明となった人々は増加し、昨年は50人に上っている。治安部隊によってヘリコプターで連れ去られて後、行方不明になった例が多数あるにもかかわらずトルコ政府はこれらの事実を認めてはいない。武器の援助については、ドイツ、フランス、ロシア、イギリス、アメリカなどが行なっており、トルコ政府はそれらの武器を人権侵害には使用していないと主張しているが、アムネスティは、諸国政府に武器輸出の制限を求めている。この報告書に対して、トルコ政府は「アムネスティは、ＰＫＫの主張を採用しており、人権調査には重大な誤りがある」と、既に常套句となった言質で応えた。

★ＯＳＣＥ、トルコへの調査団派遣を決める

ＯＳＣＥ（欧州安全保障協力会議）は、5月に人権侵害の調査のためにトルコ内のクルディスタン地方に向かうことを、2月8日決定した。また、ドイツの労働大臣ノルベルト・ブリュームは、アムネスティの報告書を重視し、トルコに対して「人権の尊重される民主国家の輪のなかに戻る」よう呼びかけた。

★ベルギー外相、トルコに人権尊重を要請

ベルギー外相は2月9日、「トルコは、ＥＣで孤立するよりは、対話を通じて人権を尊重するようにとの圧力の下に置かれるべきだ」と語った。これは、アムネスティ・インターナショナルの報告書を読んだ結果の反応であった。

★トルコ首相チルレルの日本訪問

2月26日にトルコ首相タンス・チルレルが日本を訪問し、4日間滞在して村山総理大臣などと会談した。今回の訪日の目的は、経済状態の悪化に対して日本政府の援助を求めるためであった。しかしながら日本政府は、ＩＭＦの出方を考慮して、トルコへの無原則な援助には懐疑的かつ慎重だとの見方がある。また、トルコは経済の悪化に加えて、ＥＵとの関税同盟への加入をギリシャが拒否権を行使して阻止する可能性もあるなど、不安要素を抱えている。さらには、トルコの人権抑圧が欧米で問題化している。日本政府はこうした諸問題をも考慮して慎重な対応をしていると考えられる。一方日本のマスコミは、一様にトルコに好意的な記事を掲載した。「トルコは民主的な国だ」とのチルレル首相の談話を発表したり、クルドゲリラの討伐＝クルディスタンでの人権抑圧を正当化するなど、客観報道とは縁遠いものであった。27日の首脳会談で、村山総理は5億ドルの貸与と2国間の人的交流の拡大を提示した。トルコの対日貿易赤字は、昨年の最初の10ヶ月間で6億4600万ドルにのぼっている。

★南クルディスタンで爆弾テロ

国連の保護の下に自治を行なっている南クルディスタン北部（イラク北部）の町ザホの繁華街で、2月27日朝、車に仕掛けられた爆弾が爆発し、死者73人、負傷者141人の被害（ＫＤＰ発表）が出た。トルコ国境に近いこの地域はＫＤＰの勢力範囲にある。何者によるテロであるかは現在のところ不明。対立するＫＤＰとＰＵＫは、2月初旬にトルコとアメリカの仲介で停戦に合意したが、これはすぐに破れ、この地域は不安定な状態にあった。ＫＤＰは、この事件でＰＵＫを非難し、ＰＵＫは、クルド人同士を戦わせようとするイラク政府の陰謀としている。

★トルコ軍、イラクに対し越境攻撃の恐れ

イラクの反体制派ＩＮＣ（イラク国民会議）が2月28日に発表したところによると、戦車に支援された2万人のトルコ軍がイラク国境に迫っている。トルコ軍は2月26日から急速に展開しており、南クルディスタンの町ザホ付近の国境地帯で増強されている。このような国境での部隊増強は、1992年10月以来である。この時トルコ軍は、南クルディスタン（イラク領）にあるＡＲＧＫのキャンプを攻撃するために、国境を突破して侵入している。

★クルド自治区境界にイラク軍大部隊が結集

3月3日、イラク軍戦車部隊がＰＵＫの支配するキフリ（バクダットの北東 170キロ、飛行禁止区域の南 155キロに位置する）を包囲した後に突入し、市街地で機銃掃射を行なった。この地域に展開する戦車は55両に達し、クルド・ゲリラはイラク軍に反撃している。この戦車部隊はさらに進撃し、飛行禁止区域の南55キロ地点にまで達した。イラク軍は、この地域だけでなく、自治区境界線の広範囲にわたって展開している。南クルディスタン（イラク領）に駐屯する国連監視派遣団がＰＵＫの指導者タラバニとの会談（3月7日）で明らかにしたところによると、クルディスタンに展開しているイラク軍は、1990年のクウェート侵攻に匹敵する規模に達している。詳細は以下の通り。展開しているのは、第1、第5、第2の3個軍団。これらの内訳は、歩兵師団9、装甲師団1、機械化師団2、共和国防衛師団4（装甲師団1を含む）、国境防衛師団1の計17師団。これ以外に25以上の戦車部隊、装甲連隊8、機械化連隊7、装甲部隊4、歩兵旅団27。

★トルコ系施設攻撃を理由に活動禁止追加

2月26日、ブレーメン、ケルン、ベルリンなどのトルコ旅行会社6ヵ所が火炎ビン攻撃された。続いて28日にも、フランクフルト、ハンブルグ、ハノーバーなどで同様の攻撃が行なわれた。ハンブルグの現場からは、『火と太陽の国の息子たち』との署名入りのビラが見つかり、「トルコで休日を過ごすな」という内容であった。ドイツ当局はこの攻撃をＰＫＫによるものと一方的に決めつけ、3月2日にケルンにあるクルディスタン情報事務所（ＫＩＢ）など5つのクルド系組織を活動禁止とした。これに伴い、同事務所とドイツ各州の事務所や自宅など9ヵ所の家宅捜索が行なわれた。当局は、ピストルとＥＲＮＫの旗を押収したと発表している。ＫＩＢは、昨年クルド系組織が一斉に活動禁止処分を受けた翌月の1994年12月に設立された。ドイツ内相カンターは、「ＫＩＢの禁止は、禁止措置を欺くＰＫＫの試みに対する回答」としている。

★ギリシャ人ジャーナリスト逮捕にギリシャ政府抗議

2月27日に行なわれた、人権協会（ＩＨＤ）ディヤルバクル事務所への家宅捜索の際、その場に居合わせた16人が逮捕された。この中に、ギリシャ人ジャーナリストと彼の通訳であるトルコ系ギリシャ人が含まれており、アンカラのギリシャ大使館はトルコ外務省に抗議した。ＩＨＤはトルコ政府の激しい弾圧にさらされており、ディヤルバクルＩＨＤのメンバー6人は、南東部（クルディスタン）についての人権リポートを発行したことを理由に裁判にかけられている。

★クディ山でのゲリラ掃討作戦が頓挫

ドイツにあるクルド系通信社KURD-Aは、ゲリラが支配するクディ山に対するトルコ軍の攻撃を撃退したと発表した。クルディスタンでの冬季大作戦を展開しているトルコ軍は、2週間以上にわたり数百台の戦車、2000人の兵士を動員して、航空機による爆撃を伴い、ゲリラの拠点であるクディ山（トルコ軍は、昨年の夏この山を占領したと虚偽の発表をしている）を攻撃した。2月26日に17人の死亡という損害を出してトルコ軍は撃退された。ゲリラ側の死者は6人。（トルコ軍の発表では、死者2人、ゲリラ側死者37人）

★イスタンブールでアラウィ派住民が抗議の暴動

3月12日、トルコ内のイスラム教アラウィー派の住民が多く住むイスタンブールのガジオスマンパサ地区（スラム街）のコーヒーショップ4ヵ所と菓子屋1ヵ所が武装集団に襲撃された。店が賑わう時間帯に行なわれた自動小銃乱射のために、2人が死亡し25名以上が負傷した。「大東方イスラム侵略者戦線」と「トルコ報復旅団」が犯行声明を発表している。この地区では、昨年3月にイスラム原理主義の市長が就任し、アラウィー派モスクを閉鎖しようとするなど、宗教弾圧が続いていた。

凶行に怒る住民たちは12日夜から抗議デモを展開し、これを弾圧しようとする警察部隊と激しく衝突した。警官隊が住民に発砲したため、翌日の朝の時点で住民3人が殺害され、20数人が負傷した。当局はこの日から夜間外出禁止令を出したが、抗議デモはアンカラその他の都市でも起き、死者は17人に達した。15日にも大規模な衝突がイスタンブールで発生し、警察部隊に殺害された住民はこの時点で30人に達している。

クルディスタンでの戦争に関する統計

KURD-A通信は、数週間にわたってクルディスタンでの戦争の統計のための調査を行なった。独自の通信員の情報に加えて、日刊紙『オズギュル・ユルケ』からのデータも利用し、また、トルコの人権団体ＩＨＤからの報告や、ＥＲＮＫの統計値も含めた。

ＰＫＫの武装闘争が始まった1984年以来、トルコ政府軍とＰＫＫのクルド・ゲリラ軍であるＡＲＧＫの間の対決は、極度に前例のないレベルにまで達している。我々の調査によると、1984年以来、3万5000～3万7000人が死亡しているのである。

合計で1万1000回の軍事衝突が、1984年以来、行なわれている。戦闘では、概算で2万6000人のトルコ軍兵士とその他治安部隊員が死亡した。ＡＲＧＫゲリラは3500人、5000人から7000人のクルディスタンの一般民衆が殺されている。この2年間だけで、200万人が難民となり、2500の村が破壊されているために、一般の死者の実数を算出するのは難しい。

この2年間の「死亡者統計」は、最も正確にクルディスタンでのますます激化する戦争の状態を描きだしている。先週、非常体制下のある地方の知事は、アンカラ政府の数字とは異なって、1994年だけで9000人以上が死亡したと語ったものの、我々は、1万1000人のトルコ軍兵士と治安部隊員、1300人のゲリラが殺されたとの情報を得ている。（1995.1.15）

トルコの南クルディスタン侵攻に関するPKK総書記声明

ＰＫＫ総書記アブドゥラー・オジャラン（右）

トルコで起こっている最近の挑発を正確に計ることは、非常に重要である。辞任に直面する弱体政府は、新たな連立を人民大衆党（ＣＨＰ）と形成し、一方で自らをかけがえのないものとするために、暗黒社会を通り凶行を行なっている。

最初にザホの大虐殺、次にガジオスマンパサ住民への例を見ない流血の弾圧、そして最後に、危機にある政府を延命させるためにだけ企画されたこの最新の作戦である。彼らが言うには、この作戦は、20年前にキプロスでトルコ政府が着手したものよりも、はるかに包括的なものであるという。それは、ある結末に至る小心翼々たる計画の一部なのである。トルコ軍がキプロスに侵攻する前、トルコ政府は「トルコ、ギリシャ両国は戦争状態にある。我々は平和を得るためにやって来た」と言明した。再び、南クルディスタンでの緊張状態は、アンカラ政府にとっての好機だったのだ。強力な爆発があったザホでは、蛮行がなされた。またしてもトルコ政府は、クルド連合国家の内政に干渉したのであった。侵攻が順調に行なわれるように、相争う諸党が戦うよう仕向けたのである。

アンカラ政府がバグダット政府と密かに会合を持っていたことも、我々は知っている。その目標は、クルド連合国家の息の根を止めることなのだ。軍隊は好き勝手に行動し、経済悪化のために政府が直面していた信用失墜にも関わらず、アンカラのいわゆるタンス・チルレル文民政権は、あらゆる意味で無理強いしていたのである。

イスタンブールのような鋭敏な都市、ガジオスマンパサのような貧困スラム街では、政府への反感は例外的なことではなく当然のことだ。虐殺で頂点に達した攻撃は、ある結論に至る計画の一部であったのだ。「アンカラ政府は辞職を強いられるべきでない。もし、そうなれば、混乱が起こる」というのが政府の論理であった。アレウィ社会の行く末も関係している。彼らは、クルド解放闘争の呼びかけに、急速に応えていたのである。彼らへのメッセージはこうだ。「もしお前たちが今やっている事を続ければ壊滅させられるだろう」。ガジオスマンパサでの攻撃は、日々国中で行われている「未解決の殺人」が高じたものなのである。

ザホにも同じ論理が働いた。「混乱期には虐殺が行なわれ、分別ある行ないが、人々に安全と治安を与える。ちょうどキプロスのように、そこでは、トルコ軍の島への侵攻が、人々に治安をもたらすために必要であった」。彼らは、安心を与える作戦を行なう軍隊というよりは、クルド人を「保護」するのにより効果的だ、と言っているようだ。トルコはその地に留まりたいということなのだ。彼ら自身の言葉では、「政治的不安定が存在する限り、我々はここに留まる」。言い換えれば、彼らは、この地の政府になりたいのである。彼らの主張にもかかわらず、今回の作戦は、アンカラから垂れ流されているような、ＰＫＫ戦闘員を追い詰めるための作戦ではない。

彼らは、このような段階を経てアンカラ政府の延命を望み、反対勢力を沈黙させたいのだ。この一見関係のない作戦をもって、経済、社会問題に苦しむ民衆の反発を防ぎたいのである。彼らは反発をなだめているとも言える。結果として、政府は居座り、軍隊の望みはかなったのだから。政府は、経済、社会、政治問題を後回しにしたいのだ。彼らが破壊したいのはＰＫＫの基地ではなく、彼ら自身の失策を隠蔽するために、国の歴史上最大のこの軍事作戦を背負わせているトルコ政府が直面する危機なのである。

我々は、ファシズムのような意図を持つ集団の虐殺行為とあからさまな占領に対して沈黙を続けないように、進歩的・民主的国際社会に対して繰り返し要請している。他者による支配を大目に見るような出すぎた軍事行動に連座する事を、たしなめるのは当然である。アメリカ合州国は、トルコ・ファシスト国家による虐殺を密かに支援している。この汚い戦争の支援をアメリカ政府が撤回し、この問題の政治的解決のための機会を準備するよう我々は望む。マスメディアには、これらの事態に隠された真実を報道する義務がある。実際、トルコ軍から垂れ流される情報は、我々の観察結果とは符合していないのだ。

占領軍は、我々の居る地域を目標とはしていない。トルコ軍は、市民とペシュメルガの町であるザホに入っている。彼らは、トルコ軍のテロから逃れて来たクルド人キャンプをも包囲しているのだ。これらの人々はテロを受けている。「作戦は限定的なものであり、一般市民に危害を加えるものではない」と言う人々は、世論を欺いている。「作戦は限定的なものであるべきだ」と言っている部外者たちは、攻撃を大目に見て、見守っている。これらは、ダブル・スタンダード（二重基準）なのだ。

我々の抵抗闘争は、主に北部で行なわれている。南クルディスタンでは民族戦線の下に団結する革命勢力が存在している。彼らもまた、抵抗の歴史を持っているのだ。彼らは、この地域で政府に代わる勢力となりつつある。我々ＰＫＫは、この進展を支援している。我々は、これに関わっているわけではないが、民主勢力は、我々の支

援を享受しているのだ。遂行すべき展望を持ち、彼らの独立国家を獲得したがっているクルドの愛国者たちが存在しているのだ。

もちろん、ＰＫＫのゲリラ戦士たちを包囲するのは、そう簡単なことではない。我々は、長期に渡るゲリラ戦争を戦うことを決意している。敵を陥れ、そこを彼らの墓場とするのだ。今までに、数百人のトルコ兵が死亡している。我々の損害は11人の戦士に過ぎない。我々は、この戦争に備えており、その士気は高い。我々は、この軍事作戦を待ち構えていたのである。我々は、彼らが予期せぬ流儀ではなく、敵が理解する言葉で対応した。接戦において、我々はトルコ軍の動きを阻止し、退却を強いている地域もある。彼らは、決して、我々を完全に包囲することはできないし、我々の自由な動きを妨げることはできない。我がゲリラ戦術をもって、常に軍隊にたよる軍事的解決というトルコ政府の恵まれた政策が勝利するのを打ち砕くだろうと、我々は確信をもって指摘できる。

この精神において、我々は、皆さんに戦争への注意を喚起し、我々の挨拶とする。

3月24日
アブドゥラー・オジャラン
クルディスタン労働者党総書記

恒久的和平を呼びかけるＰＫＫ総書記声明

クルド問題は、急速に国際的規模の論議となりつつある。政治的解決が、必要となって来ているのだ。ドイツのみならず他の諸国も、この事実を見落とすことはできないことを、我々は指摘したい。

トルコに与えられる支援によって、クルド人皆殺しと国土の壊滅は頂点に達している。トルコ政府の政策は、限度を知らぬかのごとくである。このような狙いを持つ政府に救いの手を差し延べないのは、当然のことである。もちろんこれは、クルド人民の望むところである。クルディスタンの住民を根絶やしにするよう企てて、虐殺を引き起こし強制移住させるといった戦争ルールを破るトルコ政府の政策に、クルド人民は抵抗している。我々は、ヨーロッパで暴力行為を行なおうと計画したことなどない。特別の戦争部局の計画によって指揮されたトルコの戦争への、ドイツ政府の暗黙の支援は、クルド人を絶望に追い込んでいる。我々は暴力行為がなされることを望まない。このことを、知っていただきたいのである。

我々は、また、状況が好転するのに何らかの手段が講じられる必要があると信じている。我々は、全ての武器の荷送りは停止されなければならないと信じる。人権とクルド問題に関する強制的政策を支援するのは、誤りであると我々は考える。今後、ドイツ政府はこの問題の政治的解決のために、トルコに圧力をかけるべく、その影響力を行使すべきだ。そういった努力によって、クルド人民が法を尊重するようになるのだ。そのような有望な政策を、クルド人民は強力に支援するだろう。

人権と民主主義を尊重する人々にとって、そのような有望な歩みが重要なのだ。我々は、他民族に示されたと同じ処置が、中東で最も古い人々の一つであるクルド人に向けて示されるのを待ち続けている。我々は、我が党のための何か特別なものは望まない。我々は、民族の権利を合法化することを、ドイツ人民とその社会に充分に委ねているのである。

人権のためになされるであろう活動は、皆殺しの憂き目に会っているクルド人にとって、最も重要である。それは、人間性への貢献でもある。この問題へのドイツや欧州社会の感受性を考慮に入れつつ、政治的解決を見出す方向で歩みを進めることが、さらに重要なのである。クルド人を、民主主義の基準に委ねることも、中東の数多くの問題に解決をもたらすだろう。

我々は、ドイツにこの問題への大きな責任があるという事実を考慮して、この努力の指導的役割を果たすよう願う。もし、そうされるなら、我々からの友好的な歓迎が加えて期待できる。我々は、我が党とＥＲＮＫの禁止措置が除かれ、この問題の政治的解決のために歩みだすことを望む。このような行動の前進は、同様にドイツの利益なのである。関係が改善されるためには、彼らの政策は、内紛を防ぎ、人民の利益を損ねないことを念頭に指導される必要がある。長らく採用されて来た誤った指導方針、これは今まさに、ドイツ政府が演じている規範によって与えられているのであるが、健全な関係を設立するための道をならすために、是正される必要がある。我々は再度明らかにしたい。我々は、既に期待されることを行なっているのである。

現在のトルコ軍の南クルディスタン侵略は、クルド問題に解決をもたらさず、戦争状態をエスカレートさせている。南クルディスタンの紛争を泥沼にしている。このトルコの政策そして侵攻という結論は、明らかにクルド民族全体を標的にしているのだ。軍事作戦がいかなる解決をももたらしていないことは、非常に明白になっている。平和的かつ民主的解決のテーブルにつくべき時なのだ。

この作戦はトルコ軍にとって大失敗となっている。この作戦を終結させるために、ヨーロッパ世論、民主的大衆、西側諸政府が政治解決を強調するよう我々は待つ。あらゆる機会において、我々は、この紛争の平和的解決に向けた願いを示している。我々は、相互停戦、国民投票、民主的討論の準備が出来ているのだ。「我々は、その役割を果たす準備が出来ており、障害は存在しないと見ている」という我々の呼びかけを繰り返し言っているのである。

アブドゥラー・オジャラン
クルディスタン労働者党総書記
1995年４月14日

PKK(クルディスタン労働者党)の歴史(1)

第１次世界大戦においてオスマン帝国は崩壊し、その領土の大半は連合国側に占領された。1918年の休戦後、将来のクルディスタンの帰属に関する紛争が、諸国とトルコの間で続いた。オスマン帝国から受け継いだトルコの国家機構の統制を獲得したトルコのブルジョア階級は、クルディスタンの大部分を支配下に置くこととなった。イギリスは、モスル、キルークなどの油田地帯を含む南部クルディスタンを占領した。同様にフランスも、アンテップ、ウルファ、マラス一帯を占領した。1920年のセーブル条約は、クルディスタンの国家創出を規定したが、トルコの指導者ムスタファ・ケマル・アタテュルクは、その批准を拒絶したのである。

２度目の条約であるローザンヌ条約は、1923年にトルコ、イギリス、フランス、イタリア、日本、ギリシャ、ルーマニア、ユーゴスラビアによって署名された。この条約は、クルディスタンを全く無視したものであった。条約によって、クルディスタンは、４つに分割されたのである。東クルディスタンはイランへ、南クルディスタンはイラクへ、南西クルディスタンはシリアへ、25万平方キロに及ぶ最も大きな中央・北西クルディスタンはトルコに与えられることとなった。

ケマリスト国家は、地方支配を行ないクルド人の存在を抹殺するための新しい政策を展開した。クルド民族の否認は、トラニアリズム（汎ウラル・アルタイ主義）の政策と、「一つの人民、一つの市場」の原理に基づく汎トルコ主義に深くつながるものであった。ケマリスト国家はクルドに関連する全てを破壊し、クルディスタンの言葉（クルド語）の使用を禁止した。同じ理由で、クルド民族はトルコ中に強制的に分散させられ、その国土は1930年の「強制的居住決議」によって奪われたのであった。この「境遇」は、アタテュルクの「トルコの歴史的テーゼ」によってより一層悪化させられることとなった。このテーゼは、トルコ民族が全ての文明の根源であると見なすものである。そして、トルコの民族性を損なうクルドの人々を、おそらくは山岳に居住するゆえに「山岳トルコ人」の身分に分類したのであった。

クルディスタン占領は、残忍な形で遂行された。虐殺と追放が、日々の生活の一部となったのだ。おびただしい叛乱と抵抗の試みが、トルコの攻撃に対してなされた。1920年から1940年の間に、27回の叛乱が起こったのである。当初は順調であったが、最終的にトルコ国家は、特殊戦争の戦術を通じてそれらの叛乱を挫折させることに成功した。もちろん、クルドの叛乱の失敗には多くの要因があった。現代的な民族解放組織としてのＰＫＫは、それらの理由をその端緒から慎重に分析した。そして、この分析からいくつかの非常に重要な結論を引き出したのである。

失敗の第一の原因は、叛乱が地域的だったことである。民族的統一がなかったのだ。二番目は、指導が不適切かつ非積極的になりがちであったことである。三番目には、叛乱が内部からの裏切りによって挫折したことである。トルコ国家は多くの革命家たちを買収し、彼らを同胞に対し差し向けたのだった。ちょうど、今現在のように、「クルド人をクルド人によって撲滅させよう」とする政策がとり入れられたのである。1938年、デルシムでの最後のクルド叛乱の挫折によって、クルディスタンの軍事占領は確立した。

ＰＫＫの党旗

トルコは次に、同化と順応の期間をもたらした。トルコの学校が建てられはしたが、これらは全て単に同化政策のための礎石であったのだ。全ての町や村の学校で、クルド語の使用が禁止されると同時に、少なからぬ暴力の使用をともなって、トルコ語が強制的に押し付けられたのだった。

クルディスタンの未開発の市場は、（経済力を使い果たした）トルコのブルジョアジーにとって、千載一遇の好機として差し出された。クルディスタンの最も僻地の中までの道路建設は、トルコによるクルディスタンの鉱物・農業資源の略奪をもたらしたのであった。

かくして、沈黙と共犯の期間がクルディスタンで始まった。トルコ国家のとった手段によって、クルド問題は埋め固められてしまおうとしていたのである。しかしながら、1973年、トルコの安寧は、ＰＫＫグループの創設によって打ち砕かれることとなったのだ。自身のアイデンティティの宣言によって、クルディスタンの新たな期間が始まったのである。全ては、民族解放の大義に捧げられたのであった。

《1973～1976》
イデオロギーグループとしてのＰＫＫ

ＰＫＫのグループとしての創建は1973年にまでさかのぼる。その創設過程において、現総書記アブドゥラー・オジャランの態度は、決然としたものであった。彼は主張を明確にし、発展させ、そして最初のグループが彼の支持者達によって作られたのである。

当時、アンカラ大学で政治学を学んでいたオジャランは、クルド人の境遇と世界情勢について熱心に研究していた。他のクルド出身の人々も同じ課題について学んでいた。彼らの中には、トルコの政治党派に参加している者もおり、また「東方協会」に属している人々もいた。それらに共通することは、改革によってクルド問題を解決することができると信じていたことであった。よって、彼らの努力は、文化活動のレベルにとどまったのであった。

これとは対照的に、オジャランは歴史的かつ政治的視点からこの問題を深く探究し取り組んでいた。近代的かつ文明的解決を見いだすことが必要だと、彼は考えた。1972年初頭、すでに彼は、構造的課題としてクルド問題を講義の題目の中で提起し、それによって重要な政治的攻勢を開始したのである。クルド問題について語ることがタブーであったこの当時、トルコの大学において「トルコにいるのは一つの民族だけではない。クルド民族もまた存在しているのだ」ということを提示する講義をもって、攻勢を開始することは非常に勇気あることであった。

グループは、反ファシズム闘争という明確な主張を採用した。学生層の中で、活動的な愛国者たちは多くの支持者を得た。オジャランは最初に、アリ・ハイダル・カイタン、ジェミル・バイック、ハッキ・カレール、ケマル・ピルたちと出会った。グループは学生組合「アヨド（アンカラ大学学生組合）」の中で、その活動に着手した。「アヨド」は、反ファシズム学生の出会う場となっていたのだ。

トルコの左翼勢力は、このクルドを基盤とする攻勢を止めようとした。そして激しい思想闘争が始まったのである。ＰＫＫはクルディスタン解放のために闘うが、排外主義と人種差別主義を拒絶する。その方針は、黒海地方からやって来た二人のトルコ人、ハッキ・カレールとケマル・ピルが、オジャランに合流していることから明確である。後にクルド問題に生命を捧げることとなった二人の立派な男たちは、オジャランによって論じられた主張が正しいことを確信していたのであった。

グループのメンバーたちは、アンカラでは有名な地区であるディクメンで集会を持った。そこでは、アンカラで形成されたグループに加わった25人が、クルディスタンで政治的活動を開始する決定を採択したのであった。クルドの多くの主要都市で政治活動を組織するべく、彼らは出発していった。ジェミル・バビックはウルファへ、ケマル・ピルはムスへ、ハッキ・カレールはバトマンへ、ハイダル・カイタンはデルシムへと送られたのである。

まず最初、学校の青年たちの間で活動が組織された。宣伝小冊子（パンフレット）などほとんどなかったため、政治主張は口頭で広められたのである。若い学生たちの間での活動は、ついには労働者・農民に強い印象をもたらした。ほとんどの場合、学生たちは村や貧困階級の出身ゆえに、彼らの考え方が彼らの家族に影響を与えたのであった。

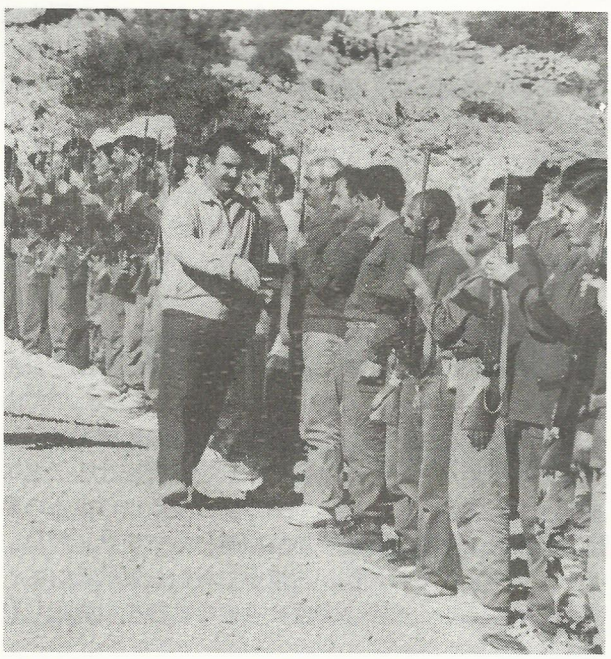
1977年、建設・機械労組の施設において、達成した活動を評価するための総会が持たれ、評価は虚飾なく遂行された。各分野からの百人の代表者が、この代表者会議に出席した。他の左翼組織も、オブザーバーとして招待された。これは、自信と政治的支援が増大しつつあったグループが、いかに一つの政治組織として発展をとげることとなっていたかを、明示するものであった。

この会議の後、指導的幹部たちは、クルディスンの諸都市へと送り込まれた。1977年の春、オジャランはクルディスタン各地を旅した。これは、成功的なキャンペーンであり、多くの政治講義のなされた貴重な経験となったのだった。極秘かつ多大な注意を払って、彼はアララト山で最初の集会を開いた。後に、同様の集会が、エルズルム、デルシム、エラジグ、アンテップで行なわれ、周辺の地方や都市から代表者たちがやって来たのであった。

自信を持ったオジャランは、アンカラへ立ち戻った。トルコ政府と秘密警察は大きな関心のもと、グループの活動家たちを監視した。彼らは、その破壊を狙って、アグリからやって来たスパイ＝ネジャティが、1977年にグループに送り込まれた。ネジャティはメンバーたちをアンカラで事件に巻き込もうと企てたが、グループのメンバーによって警戒され、彼らは逮捕を逃れたのであった。ネジャティは、その後姿をくらました。クルディスタンでは、秘密警察ＭＩＴが、グループのリーダーの暗殺を企てていた。

ハッキ・カレールは、1977年３月18日、卑しむべき裏切り行為の最初の犠牲者となった。彼は、革命家を装った秘密警察のメンバー、アラーティーン・カプランによって、アンテップで虐殺されたのである。

ハッキ虐殺は、グループに深刻な影響を与えた。この政治的暗殺は、トルコ政府の壊滅政策が、クルディスタンに関する憲法的かつ立法的改革を許しはしないことを



ゲリラたちと親しく握手を交わす
ＰＫＫ総書記アブドゥラー・オジャラン（愛称アポ）

示したのである。虐殺によって始まったこの政策は、トルコ政府が戦争を開始したことを証明したのだ。オジャランは、この進展を深みのある客観性をもって洞察し、政治組織を設立する活動を開始した。1977年の秋に、彼は「クルド革命への道」という宣言を発表した。それはＰＫＫの思想的骨格となり民族解放運動を建設する闘いの基礎となったのである。

《1978～1980》
ＰＫＫの公式宣言と軍事クーデター

「クルディスタンの革命家たち」との名の下に遂行された活動は、クルド人民に益々影響を増大させた。これは、トルコ国家と、それと一体となったファシスト組織ＭＨＰ（トルコの極右組織／民族行動党－訳註）による攻撃の始まる時であった。同時に、組織の成長によって権力基盤を危うくさせられる封建的クルド人土地所有者たちは、流血の暴力行為を通じて組織を破壊せんと試みた。1978年５月19日、非常に敬愛されていたクルド人指導者ハリル・カバスが、地主に雇われた盗賊グループによって殺された。これは、地方地主に対する激しい戦争を引き起こし、多くの支持を獲得したのであった。多数の聴衆が参加する集会が、エルズルム、デルシム、エラジグ、アンテップで行なわれ、そこには、周辺地域や街々からの代表者が参集した。

1978年11月27日、非常に厳しい状況の下、ディヤルバクル地方のリジェ地域にある村、フィスにおいて、ＰＫＫの創立大会が開催され、25人が参加した。この歴史的創立大会で、ＰＫＫの綱領と要求が討議され決定せられた。そして中央と地方の組織構成が設立された。

ＰＫＫの創立は、組織された代表を持たず、厳しい植民地主義的抑圧の下に苦しむクルディスタンにとって希望の始まりであった。ゆえに、クルド人民は短期間の内にＰＫＫとその諸組織に結集し、持てる全てをもって活動に参加したのである。ＰＫＫは、解放区を急速に拡大することで、運動として発展した。トルコ国家は、ひっきりなしに軍事攻勢に及んだ。とりわけ、ファシスト国家組織と封建地主たちは、最も血なまぐさい蛮虐行為に乗り出した。彼らは、クルディスタンの現実の証明であった。すなわち、闘うことなしに生存するのは不可能だ、という現実の。国家は、人民に降伏と死を強いた。人民は、まさに自らの存在のために闘ったのである。植民地主義国家の流血とテロから自らを防衛するために、ＰＫＫは限定的な武装闘争を開始したのであった。

1980年代の始め、トルコは深刻な経済的・政治的後退に直面した。国家の預金と通貨の財源は枯渇し、人民の大多数の貧困と食料不足は増大したのである。政治上では、国自身が大統領を選出する能力もなく、議会は機能しなかった。

これらの実状と主観的展開は、必然的に軍事クーデターへと至った。1980年１月の声明で、軍は（ＰＫＫの）活動を脅迫した。トルコには、軍事クーデターの長い歴史がある。３度目になるクーデターは、1980年９月12日

ＰＫＫを支持する民衆のデモ（北西クルディスタン）

に遂行され、５人の将軍に率いられたトルコ軍は権力を握った。

クーデターの原因はいくつかある。一番目は、クルディスタンでの解放闘争の前進。これが重要な理由であることは、軍事評議会議長のケナン・エブレン自身の認めるところである。二番目は、トルコの革命的民主運動が、国家を真に脅かすまでに成長したこと。三番目に、トルコが経済的・政治的危機に瀕していたこと。四番目に、イラン革命が中東におけるアメリカの権威に影響を及ぼしたことである。アメリカはトルコの支配を思うがままにしておきたかったゆえに、これは、アメリカの利害を危機にさらすものとなった。アメリカ自身、軍事政権による権力強奪の一部を演じたのだ。

ＥＲＮＫ　（つづく）

1994／トルコの人権侵害の実態

トルコの人権団体ＩＨＤによると、1994年にトルコで行なわれた人権侵害の件数は、以下の通りであった。

・逮捕		1209
・令状なき逮捕、一時拘束		14473
・拘禁中の行方不明（おそらく殺害されている）		328
・正体不明者による殺害		292
・拘留中の拷問による殺害		1000
・市民への軍の攻撃による	死亡	458
	負傷	5574
・戦闘による死者		5000
・村落の破壊と焼き討ち		1500
・森林の焼き討ち		31
・組合、組織、出版物の禁止措置		123
・組合、組織、政党、出版社への弾圧		119
・組織、政党、組合、出版社ビルの爆破		191
・言い渡された刑期の合計		553年５ヶ月
・言い渡された罰金の合計		557億2500万リラ
・思想、信条の表明により投獄された者		100

クルディスタンをめぐる動き(1994年8月～12月)

★ドイツのクルド人政治囚がハンストを開始

去る3月のネブロズ（クルドの正月）の日に、ドイツ各地で行なわれたドイツのトルコへの支援、ならびにクルド諸組織への活動禁止措置に抗議する一連の行動で逮捕されているクルド人たちは、8月17日から抗議のハンストを開始した。このハンストには、バーデン・ヴュルテンベルグ、ババリア、ノルトライン・ヴェストファリア各州の刑務所で 100人以上の政治囚が参加し、1000人以上の支援者が刑務所周辺で連帯のハンストを行なっている。

★ボン市内で警察がデモ隊を強硬弾圧

8月18日、ボン市内で行なわれたクルド人のデモに対して、警察が暴力的な弾圧を行ない負傷者が出た。警察は、非合法とされているＰＫＫやＥＲＮＫのシンボルマーク等をデモ隊が掲げていたことを理由に、デモ隊を解散させようとした。このデモは、8月27日にジュネーブで行なわれる国連人権委員会の民族自決に関する会議に合わせて、クルディスタンの自決を訴えるためにバイクツアーに出発するクルド人青年たちを送り出すために、企画されたものであった。警察の弾圧に逃げまどい、郵便局に避難した子供を含むクルド人を、警察は建物の中にまでも突入して22人を逮捕した。これまでに、ボン市で逮捕されたクルド人は 100人以上となっている。

8月20日には、この弾圧に抗議するデモがフランクフルトで行なわれた。 500人のデモ隊に対して、警察はまたしても暴力で応じようとした。緊迫した状況の下、先の弾圧で押収された青年たちのバイクを返還せよとのデモ隊の要求を、警察は受け入れ、交換条件としてデモ隊がＰＫＫの旗等をしまったため、逮捕者なしにデモ隊は解散した。

★民族フェスティバルへの弾圧

ドイツのフランクフルトで8月21日、1100人の参加によるクルディスタン・フェスティバルが開催された。警察は、暴力的に解散させることはなかったが、ＰＫＫとＥＲＮＫの印刷物等を押収した。翌日には、フランスでもフェスティバルが開催されようとしたが、警察がこれを解散させ 190人が逮捕された。

★フライブルグでのデモ破壊

8月24日にフライブルグで行なわれたデモも警察によって暴力的に弾圧され、3人が逮捕された。同日の夜には、フランクフルトの検問で、「5人のクルド人が6本の火炎ビンをトラックに隠し持っていた」として逮捕された。4人はまもなく釈放されたが、残る1人は武装襲撃を企てていたとして拘留され続けている。

★ハンストはトルコ全土に拡大する

7月末から開始されたＰＫＫとデブ・ソル（革命的左翼）の政治囚によるハンストは、一ヵ月の間にトルコとクルディスタン全土の刑務所に広がった。参加している約 200人の政治囚たちは、刑務所の処遇改善を要求しており、これが満たされるまで無期限に継続する決意である。すでに8人の政治囚がハンストの結果、病院に運ばれている。

★戦争による死者の数

クルド系日刊紙「オズギュル・ユルケ」によれば「クルディスタン解放の闘いに対するトルコの汚い戦争による死者は政府の発表を大きく上回る」という。政府は、この10年間の死者を1万2500人としているが、実際は、2万2000人を超えている。内訳は、政府軍兵士（村落防衛隊を含む）1万1750人、ＰＫＫのゲリラ6443人、クルド人の民間人3330人。

★ＡＲＧＫがトルコ軍駐屯地を攻略

9月8日、ＡＲＧＫ（クルディスタン人民解放軍）は北西クルディスタンのカムバルークにあるトルコ軍の駐屯地を急襲。また別の場所で、バスを待ち伏せ攻撃した上に、道路を遮断した。14人のトルコ軍兵士が死亡（6人の村落防衛隊員を含む）し、4人以上を捕虜とし、施設に甚大な損害を与えた。

★フランス当局、デモ参加者の入国を拒否

9月26日、ストラスブールの欧州議会オフィスに対して、32人のクルド人のトルコへの送還を中止するよう要求するために企画されたデモの参加者は、フランス当局に入国を拒否された。警察はドイツ・フランス国境のライン川にかかるケール橋に阻止線を張り、ドイツからの約 500人のデモ参加者の入国を阻止した。デモ隊のうち代表6人のみが入国を許可され、ストラスブールへと向かった。

翌日には、約 350人の女性を中心とするグループが国境のドイツ側で抗議の座り込みを行ない、国境を実力封鎖する。10月2日当局は、最終的にデモ隊の入国を許可。約 150人のクルド人女性たちは欧州議会にデモを行なった。建物に入るのを許された代表は、フランスとドイツがトルコへの経済援助と武器の輸出を中止し、国際監視団をトルコへ送るよう要求した。

一連の行動に関連し、ドイツでは26日、マンハイム市内に 400人のクルド人デモ隊が結集して、フランス当局の入国拒否に抗議した。警官隊が、警棒を振るい放水を行なうなどしてデモ隊を弾圧したため衝突となり、 315人が逮捕された。翌日には、マンハイム市役所をクルド人女性70人以上が占拠して座り込んだ。これを支援するために市役所を取り巻く 100人のデモ隊を機動隊は激しく攻撃。この中で安全装置の掛かっていない拳銃が奪われ、混乱の中で暴発し、クルド人一人が負傷した。続い

て機動隊は市役所に突入し、女性らに流血の暴行を加えた。警察の暴力に抗議して、この夜、警察署数カ所、銀行、郵便局などに対する火炎ビン攻撃が起こる。

★デルシム周辺で大規模な村落破壊

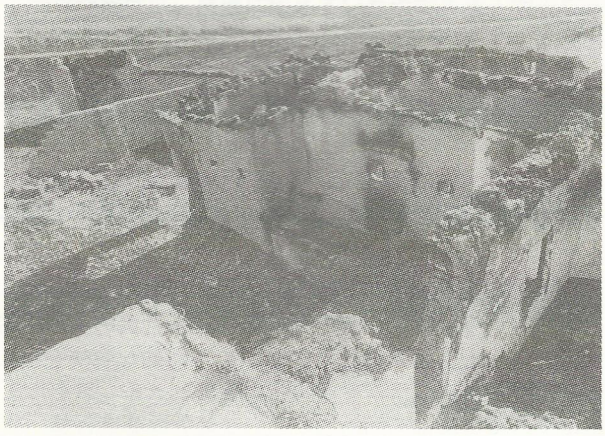
トルコ軍は9月末から、デルシム地域や近郊の村を毎日のように爆撃などで破壊し、放火している。すでにデルシムでは30以上、オバジックだけで17の村が破壊された。多数の村人は周辺都市へ非難し続けている。いままでに35人が殺されており、家ごと焼き殺された家族もある。「ローマ作戦」と名付けられているこの大虐殺作戦では、さらに 150の村の破壊が予定されている。デルシムは、1938年にトルコ軍によって4万人のクルド人大虐殺が行なわれた所で、それ以降、町の名称をタンジェリと変えられている。

★ディヤルバクルの刑務所で警官が発砲

10月1日、ディヤルバクルの刑務所で、クルド人政治囚と警官隊が衝突。警官隊は空に向けて威嚇射撃をし、催涙ガスを使用して弾圧を加えてきた。これに対して政治囚たちは物を投げるなどして抵抗した。

★ＡＲＧＫ司令官、現状を語る

10月8日、ＡＲＧＫのエベブキル・アタク司令官は、クルド通信社のインタビューを受け、クルディスタンの現状を語った。ＰＫＫの軍事部門であるＡＲＧＫは、北西クルディスタンを3つの軍管区に区分しており、アタク司令官は、ディヤルバクル、ビンゴルなどの地域を含む中央管区で1万5000人ほどのゲリラを統括している。インタビューの中では、ＰＫＫがクルディスタンの70〜80％をそのコントロール下に置いており、トルコ政府の権威は失墜していること、また、この2カ月間にトルコ軍が実施した軍事作戦が失敗に終わっていることを述べた。現在トルコ軍は、ほとんどの駐屯地を放棄せざるを得なくなっており、都市に兵力を撤退、集中している状況だという。今後は、駐屯地が存在しなくなるまで攻勢を強め、トルコ政府が設置した村落防衛隊をも一掃するとの方針が明らかにされた。更には、1995年、クルディスタンでの最終的蜂起を呼び起こすべく、大攻勢を行なうとの決意も語られた。



トルコ軍の爆撃で破壊されたクルディスタンの村

★デルシムの虐殺に抗議行動

デルシムでのトルコ軍による村落破壊と虐殺に抗議して、ドルトムント、ミュンヘン、ハンブルグ、フランクフルト、ハノーバー、ベルリンなどのドイツ各都市で10月22日、抗議行動が行なわれた。ロッテルダムなど欧州各都市でも、同様な抗議行動がトルコ関連施設に対して行なわれた。

★トルコ政府、アムネスティの調査を拒否

トルコ政府は10月26日、アムネスティ・インターナショナルからの拷問の実態調査の申し入れを拒絶した。トルコ政府は、去る10月16日に「アムネスティとＰＫＫは非合法な接触を持っている」として、非難していた。アムネスティは、トルコ国内でのＰＫＫとの接触を否定し、「トルコ政府の姿勢は、1月に政府が発表した、トルコでは人権が守られているとの主張に反する」と発表した。

★ＥＲＮＫヨーロッパ代表逮捕される

10月26日、ロンドンの地下鉄ウエストミンスター駅でＥＲＮＫのヨーロッパ代表部のカニ・イルマズが逮捕された。同氏は、23日にイギリスの労働党所属の国会議員の招待を受けて、ヒースロー空港からイギリスに入国していた。到着の際には、公式訪問ゆえにＶＩＰ待遇を受けている。彼が逮捕されたのは、労働党主催の集会に向かう途中であった。彼はそこで、「クルド民衆の未来」と題した講演を行なう予定であった。

クルディスタン・インフォメーションセンター・ロンドンは、逮捕について「トルコ大使館によって仕組まれたもの。今回のイギリス訪問は3回目であり、今までは何ら問題はなかった」との声明を発表している。イギリス内務省は、同氏の存在は「公共秩序と国益に反する」との理由で、国外退去処分にするとしている。ブリュッセルに居住している同氏は、トルコではＥＲＮＫの活動家であるゆえに最重要手配の対象となっている。国外退去の先はまだ決定されていないが、「出身国」との規定によればトルコとなり、そこに送還されることとなれば命の保証はない。

逮捕に抗議して、翌27日には内務省前で 150人のイギリス在住クルド人たちが抗議行動を行ない。29日からは同じく内務省前で抗議のハンストが開始された。老人や子供を含む 105人のハンスト参加者たちは、同氏が釈放されるか安全な所へ送還されるまでは、無期限のハンストを続けると言っている。

★ドイツでクルディスタン連帯行動

11月5日、ドイツのケルンでドイツ在住のトルコの左翼グループが、クルディスタン連帯のデモを行なった。ＴＫＰ／ＭＬ（トルコ共産党ＭＬ派）、デブリムジ・ソル・グチュレル（革命的左翼勢力）、ＴＨＫＺ／Ｃ、ＭＬＫＰＫの呼びかけたデモには約1000人が参加、クルディスタンでの虐殺反対、10月に逮捕されたＥＲＮＫのヨ

クルド人青年を不当逮捕する村落防衛隊員と警官

ーロッパ代表カニ・イルマズの釈放を要求した。デモ隊がＥＲＮＫの旗を掲げたため、警察はこれを激しく弾圧し 150人を逮捕した。

★ＨＡＤＥＰ、トルコ補欠選挙ボイコットを決定

今年の６月に活動禁止弾圧を受けた民主党（ＤＥＰ）の後継政党として設立された人民民主党（ＨＡＤＥＰ）は、12月に行なわれるトルコでの補欠選挙のボイコットを決定した。この補欠選挙は、国会議員の22人の欠員を埋めるために実施されるもので、この欠員には「分離主義」と「国家反逆罪」で逮捕され議員の職を剥奪されたＤＥＰの６人の国会議員が含まれている。

設立以来、ＨＡＤＥＰに対しては激しい弾圧が続いている。警察と保安部隊に逮捕されたメンバー、支援者は数万人にも及び、 200人以上のメンバーが獄中にある。その大半は正式の裁判も受けずに留置されており、「正体不明者」に殺害されたメンバーも多い。

ボイコットを決定したのは、自由かつ公正な選挙が行なわれる可能性がないことに加えて、ＨＡＤＥＰへの激しい妨害と、政府による広範囲な不正投票の恐れがあるためである。また、クルディスタン支配のために駐留している数万人のトルコ軍の兵士が、その地域での投票権を持つ一方、村や町から追い立てられた２百万人のクルド人難民には投票権がないことも、正当な選挙の実施を困難としている。ＰＫＫとその大衆組織であるＥＲＮＫは、ＨＡＤＥＰの決定を支持している。

★難民に厳しい冬

11月になって、北西クルディスタンは大雪にみまわれている。1200もの村が雪のために孤立し、通信や輸送も途絶えたところが多い。こうした中、とりわけ、トルコ軍による村の破壊によって難民となりイラク領に避難している１万2000人の人々は、テント生活を強いられており厳しい状況に置かれている。難民の流入が増加したのは、４月以来、トルコ軍が空爆などによるクルディスタン解放区への攻撃を強めているためである。

★トルコで２人のドイツ人が逮捕される

11月12日の夜、トルコとブルガリアの国境の町エディルネで、２人のドイツ人が逮捕された。ＰＫＫのビデオやテープを持っていたためとされている。イスタンブールの刑務所に留置されているカレン・ブラオン（28才）とアンドレアス・ラントヴェール（32才）の健康状態が気づかわれている。トルコでは組織的拷問が行なわれており、ＰＫＫ支持者と見なされれば、ドイツ人であっても例外ではない。

★ドイツ報道協議会、トルコ・マスコミを批判

11月23日、ドイツ報道協議会は、トルコの大新聞「ヒュルリエット」を批判した。６月に警察官によって射殺されたクルド人の16才の少年ハリムの追悼集会でハノーバー市長が追悼の意を表したことから、同紙がそのドイツ版で、「ＰＫＫ派市長」などと非難していたことに対するもの。

★活動禁止措置１周年の日に各地でデモ

ドイツ政府によるクルド諸組織への活動禁止措置実施から１周年にあたる11月26日、ドイツ各地で抗議デモが行なわれた。カッセルでは、 200人のデモ隊を解散させようと警官隊が警棒を振るったため衝突となり、警官４人が負傷、10人のクルド人が逮捕された。フライブルグでは、80人で道路封鎖を行なった。

★ドイツでトルコ・極右組織の集会

11月26日、トルコの超民族主義組織ＭＨＰ（民族行動党）の１万人を越える支持者とメンバーが、全ドイツ、オーストリア、オランダなどから、党の指導者アルパルスラン・トュルケスの演説を聞きに、ドイツの町ジンデルフィンゲンに集まった。トルコのチルレル首相は、電話で挨拶を送り、トルコ極右との親密な関係を見せた。ボズクルト（灰色の狼）として知られるＭＨＰは、人種差別主義とファシズム・テロルに依拠する組織で、今までに、クルド人、トルコの左翼、進歩的ジャーナリストなど4000人の殺害に関与している。最も多くの死者を出したのは、1977年イスタンブールでのメーデーデモ襲撃で、35人が死亡、 200人以上が負傷している。クルディスタンで汚い戦争を遂行しているトルコ軍部は、クルド人虐殺の特殊部隊に多くのＭＨＰメンバーを雇い入れている。

★ＰＫＫ創立16周年記念に際して記者会見

ＥＲＮＫヨーロッパ代表部のハッサン・デミルは、ＰＫＫの創立16周年（11月27日）を記念して行なわれた記者会見の席上、次のように語った。トルコの対外債務は700 億ドルを超え、戦争の経費はその内の70億ドルに達しており、経済は崩壊に直面している。もしトルコ国家が現在の政策を変えないのなら、1995年は激しい戦争の年となり、多くの命が奪われ、経済的・社会的・政治的な崩壊がもたらされる。この戦争の平和的な解決を求める。

★ＰＫＫ総書記、新たな停戦を提案

ＰＫＫの総書記アブドゥラー・オジャランは、停戦と国際的調停を呼びかける和平提案を11月26日に発表した。これは、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリスなどの国、そして国連、ＥＵなどに送付された。この中で、オジャランは、戦争によってクルディスタン問題を解決するという立場はとらないことを再度明確にした上で、これ以上多くの命が奪われないために、即時停戦の実施を提案している。これに対して、トルコ政府は28日に、拒絶を発表した。対ＰＫＫ強硬派として知られるチルレル首相は「我々の道は明確だ。（戦争を）続けるのだ」と交渉を拒否し、内相も「国を盗賊に売り渡すことなどあり得ない」と語った。

★トルコ軍、大規模な軍事作戦を展開

ＰＫＫが和平提案を行なう一方、トルコ軍はクルディスタンでの大規模な軍事作戦を発動した。11月末、デルシム（トルコ名はタンジェリ）に集結した４万のトルコ軍はクルディスタンの解放区に向かって侵入を開始。10年に渡る戦争で始めて冬季に実施されるこの作戦は、近代トルコ史上最大の作戦とされ、トルコ軍はこの冬でＰＫＫを一掃することを目的としている。ゲリラは守勢にまわっているとされるが、掃討にはほど遠い状況にある。政府は今年の春までにＰＫＫを一掃するとしていたが、実際に打ち破られたのはトルコ軍の方であったという実績もある。

★クルド系日刊紙の社屋が爆破される

12月３日、クルド系日刊紙「オズギュル・ユルケ」の社屋が、イスタンブールとアンカラで爆破された。同紙は発禁処分を受けた「オズギュル・ギュンデム」の後継紙であり、ＰＫＫ総書記オジャランがコラムのコーナーを持ち、インタビューも度々掲載されている。社屋の爆破によって編集局と印刷機材が完全に破壊されたために、新聞の自力発行は不可能となってしまった。発生した火災を消火しようとした労働者たちは警察に逮捕され、少なくとも24人が爆発で負傷、編集者の一人エルシン・エルディズが死亡した。爆破したのはトルコのファシストＭＨＰ（民族行動党）か秘密警察、もしくは両者の共同によるものと見られている。12月５日に行なわれたエルディズの葬儀には、数千人の人々が参加したが、警察は全ての集会を禁止して激しい弾圧を行ない、負傷者が出た。トルコの民主的報道機関などの支援もあり、現在は新聞の発行が行なわれている。

★ＤＥＰ国会議員らに判決

ＰＫＫを支援して分離主義活動を行なったとして、トルコでの裁判を受けていた８人のＤＥＰメンバー（内７人が国会議員／逮捕により地位は剥奪されている）に対する判決が、12月８日に下された。４ヵ月にわたる裁判は欧米から言論の自由への抑圧との非難を受けており、トルコ国内でも政治的な裁判であるとされていた。判決は、５人に15年、１人に７年半、２人に３年半（すでに拘留期間が判決を上回っているので釈放される予定）が言い渡された。国際的な圧力の下、当初心配されていた死刑判決は回避された。

★ドイツのトルコ系企業を襲撃

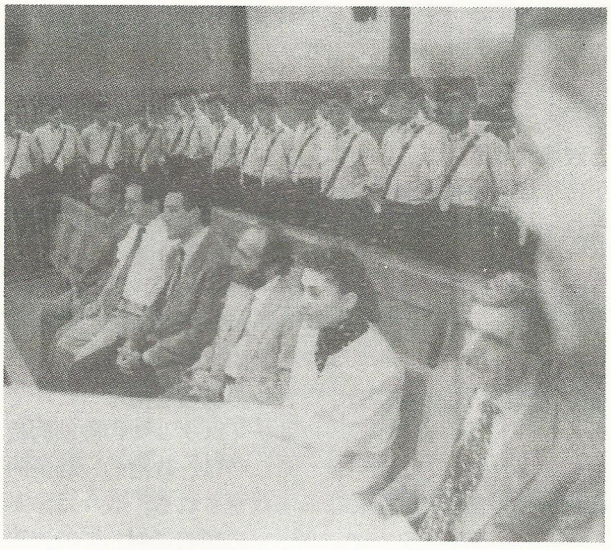
12月５日から７日にかけて、ドイツ各地でトルコ系企業が火炎ビンで襲撃された。ケルンでは６日、トルコ系銀行２ヵ所と旅行会社１ヵ所。その他、マインツ、ウルムなどでも行なわれた。８日になってドイツ警察は、クルド人のアパート、事務所、コミュニティなど76ヶ所を家宅捜索した。350人の警察官が動員されたこの捜索では、６人が逮捕され、18万ドル相当が押収されている。一連の襲撃について、ケルンでのものは、12月２日に逮捕された指導者の釈放を要求するＴＫＰ／ＭＬ（トルコ共産党ＭＬ派）のセブレイル・エキシ・コマンドによるものと明らかとなっており、家宅捜索は明らかにデッチ上げによるクルディスタン解放運動への弾圧である。

★オランダ警察、デッチ上げの発表

オランダの警察当局は以下のような、全くデッチ上げの虚偽の発表を行なった。「12月12日、２人のオランダ人と，ＰＫＫのメンバーを含む29人のトルコ人（クルド人）を麻薬密輸容疑で逮捕。彼らはトルコから、イタリア、ドイツ経由で、オランダとイギリスにヘロインを密輸していた。家宅捜索によって手榴弾５個とマシンガン２丁を含む武器とＰＫＫの宣伝物が押収された。トルコ系コミュニティの襲撃を企てていた模様」。実際には、１人が逮捕され、家宅捜索でＰＫＫのパンフレットが数冊押収されただけであった。運動に対し、麻薬密輸との容疑をデッチ上げるのは、警察の常套手段である。

★クルディスタンの死者に関する政府発表

12月18日、トルコ政府当局者は、クルディスタンにおける1994年１月から10月13日までの死者の数を5000人以上と発表した。それによると、死者は、市民 807人、保安部隊 893人、ゲリラ3430人。逮捕者は 294人、負傷者が32人、投降したゲリラ 309人とされている。



公判中のＤＥＰ議員たち

ＡＲＧＫ声明

トルコ旅行をボイコットせよ！ 汚い戦争に金銭的援助を与えるな！

ＡＲＧＫ報道局は、クルディスタンにおける特殊戦争に資金を提供するトルコ観光のボイコットに関する声明を、１月17日に発表した。特殊戦争がトルコとクルディスタンで行なわれている。この戦争状態で、休暇旅行どころではないと、ＡＲＧＫ報道局は語った。「トルコでの休暇は、全て、汚い戦争を益するものである」。以下は、KURD-A通信に文書で送付された声明である。

クルディスタンは戦場である。トルコ共和国が恐ろしく汚い戦争を行なっているのだ。彼らは、政治的かつ民主的解決に至ることを求めはしない。トルコ共和国は、クルド人民に一方的な戦争を強いているのである。都市や地方で、数えきれない人々が家を追われ、2000以上の村が、軍隊の暴力によって破壊されるか、住民を根絶やしにさせられている。何百万のクルド人が拷問を受け、1500人の愛国者たち、我が人民が獄中にあるのだ。クルディスタンの全居住地域は破壊され、森林は焼き払われ、爆撃されていない山岳地帯は一つもない。クルド人民は、抵抗し、闘うための全ての権利を有するのである。恐ろしい戦争は、ＡＲＧＫとトルコ共和国との間で行なわれているのだ。

特殊戦争は、トルコにおいても遂行されている。トルコでの休暇はどれも、汚い戦争のために収益をもたらす。それらの収益は、クルド人民に対し使われる銃弾に変えられているのである。我々は、休日をトルコで過ごすのを好むヨーロッパの人々に、戦場で休暇を過ごすことは出来ないと、警告しているのだ。チケットを予約するべきではないし、トルコもしくはクルディスタンに旅行すべきではない。戦争が行なわれている地域で、あなたが生き残るとの保証はないのである。これに注意を払わず、人権の状態を顧みない者は、トルコとクルディスタンを旅行することで生命を危うくしているのだ。これは、我々のせいではない。望まざる結果を招かないためには、トルコとクルディスタンに旅行してはならない。我々はあらかじめ人々に警告し、現実に気付かせるようにしているのである。

トルコは安全な国ではない。この責任は、政府のウソと破壊的政策にある。独裁的かつ反民主的で、その軍隊が特殊な汚い戦争を行なっている政権の観光宣伝に、ヨーロッパの人々が騙されるのを、我々は望まない。昨年のごとく、人々が我々の呼びかけを尊重するよう、我々は望む。

我々は、トルコ政府への支援を取り止め、汚い戦争の共犯から身を引くよう、ドイツ政府に呼びかける。長い目で見れば、この共犯は、ドイツの権益を損なうだけであろう。もし、ドイツが、クルディスタンでの破壊的政策を支援し続けるのならば、その時は、政治的、経済的標的が、ＡＲＧＫ部隊によって攻撃される。我々は、トルコとクルディスタンで、ドイツの標的に対して特攻攻撃を敢行するであろう。

トルコ政府は、クルド人民の存在を否定し、暴力と圧制を常に行なっているのである。この体制を受け入れることはできない。かかる体制が容認されている地域において、あなたは休暇を過ごすことはできないのだ。

あらかじめ我々は、重大もしくは望ましからざる事態に責任を追わないことを警告しているのである。

ＡＲＧＫ（クルディスタン人民解放軍）

ARGK戦況報告1995年1月

ボタンにあるＡＲＧＫ報道局は、声明第46号を発表し、以下、声明した。「1994年に第５回勝利大会を開催した我が党は、解放区において、人民的勢力となることによって、更なる勝利に到達するであろう」。報道局は1995年１月の戦況報告も発表した。

合計56回にわたる軍事攻撃が遂行された。それらの戦闘で、計69人の兵士（11人の高級将校を含む）が死亡し、52人（２人の高級将校を含む）が負傷。（これは、政府によって秘匿されている戦死者の数を含まない）。死亡した村落防衛隊員は49人、24人が負傷。７人の対ゲリラ部隊員を殺害した。

29人のＡＲＧＫゲリラが殺され、７人が負傷。負傷者は、可能な限り手厚く治療を受けている。

1995年１月の戦闘で、トルコ軍ならびに村落防衛隊から、以下の軍事物資を接収した。

カラシニコフ自動小銃７丁、猟銃５丁、Ｇ３自動小銃（ドイツ製）２丁、Ｇ３用弾薬1200発、迫撃弾発射筒６門、ＢＫＣ用弾薬20発、カラシニコフ用弾倉11個、Ｇ３用弾倉７個、手榴弾６発、Ｂ７ロケット弾５発、60型ロケット弾１発、ＭＧ３軍用装備２着、バッテリー１個、軍用バッグ10個、軍用テント９張、軍用ベスト４着、ガソリン１缶、その他軍事物資多数。さらに、トルコ兵の書いた手紙 250通を押収した。

兵員輸送車10両、ジープ１両、掘削器１台、トラクター２台、ヘリコプター２機、バス１台、装甲車２両が、ゲリラの攻撃で破壊された。パイプライン３本、送電塔１本、電話用電柱７本も、完全に破壊された。

ＡＲＧＫゲリラの攻撃の後、自身の裏切り行為を自覚した90人の（政府）協力者たちが武器を置き、投降した。（1995.2.5）

DEP国会議員への判決に関する声明

ＤＥＰ（民主党）国会議員たちに対する10カ月間の裁判は終わった。国際的抗議にも関わらず、法廷は政府の命に従って「15年以下」の刑を下した。例え、クルド人国会議員を裁判にかけることに政府が熱中したとしても、トルコ植民地主義者自身が、非難の的となってしまっているのが現実である。

ＰＫＫによって行なわれている抵抗と解放闘争の息の根を止めると宣言する声明を、特殊戦争政府が毎年発表しようとも、トルコ政府は、今回の「有罪判決」をもって勝利を宣している。現実は、しかしながら、この判決は権力の喪失と政治的・経済的崩壊を示すものでしかない。トルコは、いかなる地域も制することができなかったし、日々、クルディスタンでの領土を失っているのである。今やトルコは、テロリストと化しているという国際的印象を得ている。そして、それ自身の盟友たちにいっそう認められるべく、努力しつづけなければならないのだ。

トルコ政府は、血に飢えた戦争好きのファシストの要素たるゲリラ鎮圧政策以外の何ものでもないこの裁判を、重大に受けとめねばならない。クルド人国会議員への判決と、「オズギュル・ユルケ」オフィスの爆破は、国家保安委員会において命じられたのだ。

1994年は、我が民族解放闘争にとって、重大かつ成功の年であった。勝利を得んがための政府の特殊戦争は、卑劣な手段を使わざるを得ないまでになっている。我が党、ＰＫＫは、戦争の新たな局面への準備をしている。そこでは、闘争は、いっそう大きな次元に至ることとなろう。我々は、クルディスタンにおける影響力を更に拡大するし、我々自身の民族的諸機関を創始するであろう。

1991年の選挙で高得票を得て議員となったクルド人国会議員たちは、議会におけるクルドの協力者の伝統的な任務を全うしたのであった。今や、クルド人民は、自信を勝ち取っている。クルド人議員を攻撃することでもたらされたものとは、唯一我が人民がその意志を表することのできる、クルド民族議会創出への基礎をつくることであった。

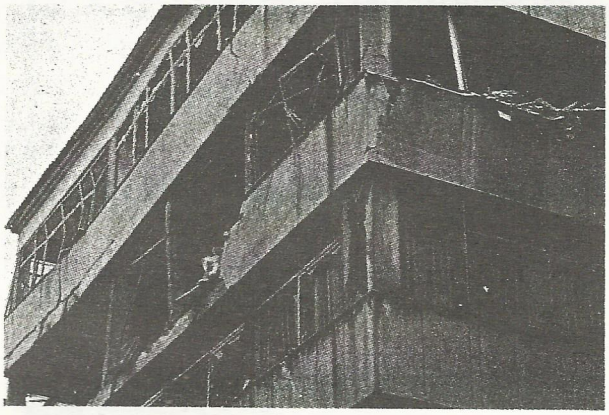
この判決ゆえ、トルコはさらに、国際的な圧力の下に置かれねばならない。今や、全世界は、政治的解決と対話に向かうのを未だに拒絶するトルコ政府の真の姿を見つめなければならない。

ＥＲＮＫ（クルディスタン民族解放戦線）
ヨーロッパ代表部　　1994年12月８日

アムネスティに関する声明

１月８日、アムネスティ・インターナショナルは、トルコとクルディスタンでの人権侵害に関する報告を出版した。ＥＲＮＫはこの報告を評価したものの、充分なものでも完全なものでもなかった。我が国は、トルコ共和国が際限のない国家テロを遂行している戦争状態にある。アムネスティ・インターナショナルが、クルド人民の民族的・民主的権利のために闘っているＰＫＫとトルコ国家を同列に扱っているという事実は、客観性に立つというよりも、アムネスティ・インターナショナルの政治的憂慮と大いに関係したものとしてあるのだ。トルコ側からの決して正当化されはしない反発を減少させるために、アムネスティ・インターナショナルは、これに沿った行ないをしているのである。

爆破されたオズギュル・ユルケ紙事務所の様子



市民を狙ったＰＫＫの攻撃の話など、けっしてあり得ない。この意味で報告は、はっきりとした説明を見いだすことなく、数人の教師と村人の名前をあげている。我々は以下の事を強調したい。トルコ政府は、秘密警察や軍に情報資料を提供させるべく、幾ばくかの教師に報酬を支払っているのである。この事実にも関わらず、ＰＫＫは出向いて、しばしば警告を発した。しかし、それらの幾人かは、我が人民に対する虐殺攻撃に血道をあげるＭＩＴ（トルコ情報機関）のメンバーであった。それらの人々で殺された者の数は、非常に限られている。また、国家によって武装させられ、給与を支払われている「村落防衛隊」は、正当な標的として見なされるべきである。それらの人々を市民に属するとするのは、国際世論を惑わせることを意味する。自宅を前線として使っている村落防衛隊は、村落の焼き討ちと何千もの村人とゲリラの虐殺に責任を負っているのだ。トルコ国家は、村落を軍事行動の対象としていることに、全責任を負っているのである。

1995年１月、ＰＫＫはスイス政府と国際赤十字に声明を送った。それは、1949年８月12日のジュネーブ協定と1977年の議定書第１号といった国際協定を遵守する、との党の自発性を明言したものであった。ジュネーブ協定の侵害に加えて、トルコは1977年の議定書第１号にさえ調印していない。これまでになされた準備に基づけば、あたかも戦争は、1995年に、より悪化するようだ。この汚い戦争を終わらせ、この問題の民主的かつ平和的解決を求めるとの願いを、我が党は再度明言したい。

アリ・サパン／ＥＲＮＫ欧州スポークスマン
1995年２月８日

村落防衛隊に恩赦を与える

ＰＫＫ中央委員会は、1995年２月25日、第５回大会の結果、民族的恩赦を与えることを決議した。この恩赦は、特に村落防衛隊に向けられるものである。彼らには、５月末までに恩赦を受けるのかどうか決心するよう猶予を与えられている。ＰＫＫの第５回大会の期間中、代表者たちは、村落防衛隊は進んでその立場にいるのではなく、むしろトルコ政府にそう強いられているのだということで一致した。クルド人に自らの人民を裏切るように強いるという罪を犯しているのが、トルコ政府なのである。これは、民族解放運動を弱体化させんとして行なわれているのだ。ＰＫＫは、クルド人民の唯一の希望である。それが、彼らが過去を負ったままでは、未来はひらけない所以である。例え、失敗や過ちが過去において許されたとしても、ＰＫＫはもはやチャンスを与えることはできない。自らの人民への裏切りは、目に見える病気である。村落防衛制度は破滅以外の何物をももたらさないが、止めるために何かがなされなければ続くだろう。それゆえ、ＰＫＫは言う。

トルコ政府に強制されるな！彼らの愚かな宣伝を信じるな！あらゆる手段によってＥＲＮＫの基盤を危うくすることのみを追求するトルコ政府の手先になるな！あなたの良心に裏切りの恥辱をもたらしてはならない！

※村落防衛隊はトルコ政府に忠実なクルド人に武器を与えＰＫＫと闘わせるために設置された。村落防衛隊の村は対ＰＫＫの戦略拠点であり、防衛隊員は政府軍と共に治安作戦も行なう。上の写真は、クルド人を逮捕する防衛隊員。（編集部）

ヨーロッパ在住クルド人声明

約 300人のクルド人が、スイス・ジュネーブの国連ビルを占拠している。彼らの祖国でのトルコの戦争に、加盟国の注意を喚起するためである。我々は、彼らの代表から以下の内容のＦＡＸを受け取った。これは国連職員に提出されたものである。

《国連加盟国へ》

1995年３月20日、約７万人のトルコ兵が、装甲車、戦車、戦闘機とともに北イラク（南クルディスタン）に侵攻した。９日が過ぎ国際的報道機関も外国の監視団も、戦争を実際に見ることを認められてはいない。たった一つの理由のために。すなわち、村が空軍に爆撃され、市民が歩兵に殺されているという忌まわしい事実を、トルコは国際世論から隠そうとしている。

一見したところでは、トルコ国家は、侵攻はクルド・ゲリラ戦士の存在によって促されたものであることを指摘している。これは、真に強烈なその本性を偽るだけのものである。本質的に、国際法を侵害する作戦は、クルド人を今度こそは沈黙させるためにもくろまれているのだ。

これは秘密ではない。国連を含む多くの国際組織は、クルド問題に関して沈黙したままだ。今でも世界のあちこちで、より小規模の動乱が国連の注意を引きつけている。そして多くは和平が保障されている。クルド人の状況は、長らく、そして今も不安定の要因である。トルコ領クルディスタンでは、この15年、トルコ軍がクルド人に戦争を宣言しているのだ。国土の法のほとんどが、自身の国土においてクルド人をとるに足らない存在だとしているからである。それは、2200以上のクルドの村の破壊を引き起こす政策なのだ。500 万人のクルド人が家と故郷を奪われ、300 万人がトルコ西部の都市に移住しているのである。

痛みと苦しみに声をあげるクルド人問題を課題とするキャンペーンに関して、国際社会の中で声を上げるものがいないのを見て、勇気づけられたトルコ国家は、今まさに、クルド連合国家の息の根を止めるために攻撃したのである。トルコ政府の、人種差別主義者の、軍国主義者の政策に対して、国連が立ち向かうのは当然の義務なのだ。言うまでもなく、この問題は全ての地域を不安定に向かわせる可能性をもっているのである。ゆえに、我々は求めるのだ。

１．トルコ武装軍による軍事占領を終わらせる手段を熟慮するために、ただちに国連安全保障理事会を招集し、クルド問題の政治的解決を追及する。

２．トルコの侵入を非難し、トルコ政府が、北イラク（南クルディスタン）から撤退するよう勧告する決議を、国連が採択する。

３．市民の犠牲者、そして財産に加えられ損害を明らかにするために、国連は戦争地域に事実調査の代表団を送る。

４．クルド問題の政治的完結の試みに同意するまで、国連はトルコへの経済制裁と武器禁輸を課す。

以上

ヨーロッパ・クルド人コミュニティ　1995年３月27日

アメリカ国務省リポート

アメリカ合州国国務省
1995年２月

【トルコ】

トルコは、多党制議会（大国民議会）を有する立憲共和国であり、議会は大統領を選出する。スレイマン・デミレルは、1993年に大統領に選出され、中道右派の正道党（ＤＹＰ）党首であるタンス・チルレルは、同年、トルコ初の女性首相となった。

この10年間、トルコは、テロリスト組織クルディスタン労働者党（ＰＫＫ）と武力衝突している。ＰＫＫは、トルコ南東部でのクルディスタン分離国家の樹立を目標とするとしている。1987年に宣言された国家非常事態は、南東の10県で続いている。そこで政府は、ＰＫＫの多大なテロリズムの暴力に直面しているのである。一人の地域長官が、近接する３県と同様にそれら10県に権限を保持している。非常事態においては、文民長官が一定の準軍事の法権力を行使することが認められている。それには、報道機関への制限や、公共秩序に反すると考えられる活動を行なう人々の地域からの移動の制限も含まれる。国家非常事態の布告は、最近では、1994年11月に更新された。

トルコ国家警察は、都市部での公共秩序の維持を引き受けており、農村部では、その責務を憲兵隊が引き受けている。1994年には、トルコの常備軍（主に陸軍）が、非常事態地域でのＰＫＫとの戦争という主要な任務に従事し、従って、数年前よりも大きな国内治安機能を引き受けることとなった。拷問を止め人権の尊重に基づく法を確立するとのチルレル政府の1993年の誓約にも関わらず、治安要員による拷問と過度の暴力行使は、1994年の間中継続した。

トルコは、国営企業が製造部門の40％近くを占める混合経済である。一連の経済崩壊は、国営企業の民営化を含む一大経済改革計画の４月５日の告示で頂点に達した。償還収支は改善されインフレも減速したとは言え、1994年には、物価は 100％以上増大した。国家の官僚制度の規模、赤字予算、不十分な税制、非能率的な国家部門が、経済成長を押さえている。南東部における紛争は、大きな負担となり続けている。

トルコの人権の状態は、1994年に甚だしく悪化した。警察と治安部隊は、他との連絡を断って拘留と尋問を続ける間に頻繁に拷問を用いたし、治安部隊は、非戦闘員に対して過度の暴力を使い続けている。ＰＫＫのテロリストは、村の役人と教師を標的として、非戦闘員を殺害したし、民衆を怯えさせるのに無作為の殺人も行なった。

国会は、クルド系民主党（ＤＥＰ）国会議員の免訴権を剥奪した。これは、主に国会議員在職中の意見表明を理由に、５人のＤＥＰ国会議員と１人の無所属議員を告発し、起訴するための道を開くものであった。直ちに憲法裁判所は、ＤＥＰを閉鎖し、他の２人の国会議員は起訴をまぬがれた。裁判は12月８日に、分離主義を広め武装集団を支持あるいは構成員になったとして、有罪判決で終わった。３年半から15年の刑であった。

種々の政府機関は、人権監視者、ジャーナリスト、弁護士、教授を、彼らが公に表明した信念ゆえに、責め苦しめ、脅し、起訴し、投獄し続けた。行方不明と不可思議な死の事例は、南東において高い確率で続いた。数件は、ＰＫＫとイスラム急進派ヒズボラ（レバノンのヒズボラとは無関係）のせいであると思われる。しかしながらその他の場合、政府治安部隊と結びつく証拠があった。多くの人権侵害の事例において、虐殺の標的はクルド人もしくは、その支援者であった。その上、時たま政府は、警察や治安部隊を法廷外の殺人、拷問、その他の虐待の罪で起訴する。有罪の評決を出す場合において、通常は寛大な刑が下された。恐らくは、結果として刑罰をうけないという作り出された風潮が、依然として不法な殺人、拷問、その他の人権侵害を減らすための唯一最大の障害である。

政府は、広範かつ曖昧なテロリズムの定義を持つ1991年反テロ法を使用し、行動、言葉、考え方が分離主義と「国家の統一を脅かす」ことを助長するとの嫌疑で、広範な人々とテロリズムと断じられた人々のどちらをも共に拘留した。９月に政府は、表現の自由を厳しく制限する反テロ法ならびにその他の諸法の改正を審問するための「思想の自由委員会」を設置した。10月中旬になって委員会は議会に、「制定され、なおかつ正しく履行されるのならば、表現の自由を多大に拡大することが可能」との勧告を行なった。しかしながら、年の暮れに議会はそれらの改革を制定しなかった。

1992年11月に制定された刑事裁判訴訟法では一般犯罪の罪人への弁護士面会が改善される一方、早期の弁護士面会といった規定は、反テロ法の下、あるいは国家非常事態中の拘留には適用されない。1993年に議会は、ラジオ、テレビ放送を政府が独占するとの憲法条項を廃止し、1994年４月に、民間放送の経営の合法化を規定する法律を通過させた。

クルディスタンの人々

国際赤十字ジュネーブ会議へのメッセージ

ＰＫＫ（クルディスタン労働者党）は、本日のジュネーブ会議での記者会見において、以下の声明を発表するものである。

報道関係者の皆さん

ＰＫＫを代表して、皆さんへ挨拶いたします。

世界の目の前で、我らが祖国クルディスタンでの絶滅戦争が遂行されています。トルコ共和国は、その創設以来、体系的な国家政策によって、我が人民の存在を否定してきました。クルド人民の文化、言語、独自性を禁止するトルコ国家は、民族抹殺戦争を指揮し、ありとあらゆる軍事的手段と、全兵力を動員しています。

人間性の普遍的価値を尊ぶＰＫＫは、我が人民の民族的かつ民主的権利のために闘っております。戦争は、トルコ国家の政策の結果なのです。この汚れた流血の冒険行為において、トルコは、クルド人民を最も主要な軍事標的だと宣言しています。

トルコ国家は、クルディスタンの人口を減らし続けています。3000の村が焼き討ちされ、何百万の人々が避難を余儀なくさせられ続けています。ゲリラ軍を打ち破ることができない国家の軍隊は、空前の厳しさをもって市民への報復を行なっているのです。１万5000人の我が党のメンバーが、死刑判決を受けて、今獄中にあります。

トルコは、自ら署名した国際協定を無視するのに加えて、報道機関、欧州安全保障協力会議（ＯＳＣＥ）、国際的人権監視団がクルディスタンを訪れ、状態を監視するのも妨げています。国家は、クルディスタンを訪れるための国際赤十字の努力を拒絶しています。

トルコは、1949年８月12日のジュネーブ会議での決議に署名しているにも関わらず、これに従ったことはなく、1977年の議定書第１号への署名も拒絶しています。

10年にわたる戦争は、３万4000人の命を要求してしまいました。戦争は、決して我が党の選択ではありませんでした。戦争は、我が人民に対して仕掛けられたのです。我々は、はっきりと声明します。我々は、民主的、公正な法にかなった解決を願い、この戦争が終わることを望んでいるのです。この願いは、83日間続いた1993年の一方的停戦宣言によって証明されました。

トルコは汚い戦争にあくまで固執し続けているのです。

我々は、トルコに政治的解決を余儀なくさせるまで、戦い続けるでしょう。我々は、トルコが国際法に従い、市民への攻撃を止めるよう呼びかけます。この紛争の当事者である党として、ＰＫＫは、常に戦争協定を遵守しています。上記の適用を示す適切な申請は、１月23日にＰＫＫを代表するＰＫＫ総書記アブドゥラー・オジャランの名において国際赤十字とその関係諸団体に提出されました。

宣言は、以下の諸点についても含むものであります。

１．ＰＫＫはトルコ国家の軍隊との衝突において、1949年のジュネーブ会議と1977年の議定書第１号の尊重を保証する。戦闘行為と戦争犠牲者の保護に配慮し、自軍とその支配下にある地域において、法の実施を行なう義務を負う。

２．疑念に終止符を打つべく、ＰＫＫは以下のグループがトルコ治安軍を構成しており、従って、正当な攻撃対象だと見なす。

ａ．トルコ武装軍の構成員
ｂ．トルコ対ゲリラ部隊構成員
ｃ．トルコ情報省構成員
ｄ．トルコ憲兵隊構成員
ｅ．村落防衛隊員

上記の分類いずれかになくとも、ＰＫＫは、行政役人は治安部隊構成員とは見なさない。

３．ＰＫＫは、拘留した治安軍のメンバーを戦争捕虜として取り扱う。

４・ＰＫＫは、この声明、1949年のジュネーブ会議規定ならびに1977年の議定書１号を、その軍に広め、そして、国際赤十字の援助を請う。それらの規定の尊重を確固たるものにするための規律、そして反した者への処罰が採用される。

ＰＫＫは、国際赤十字からの尽力の申し出を受け入れたい。

５．ＰＫＫは、トルコ政府に、同じ保証を与えること、ならびに国際赤十字からの尽力の申し出を受け入れるよう呼びかける。

最後に、ジュネーブ会議の全党派、国連、ＯＳＣＥ、欧州議会、国際赤十字が、戦争を終わらせるために重要な歩みを進めるよう、もしくはトルコ国家とＰＫＫが国際法の下での責務を重んじることを確実なものとするよう、ＰＫＫは呼びかけます。

ＰＫＫを代表して、総書記アブドゥラー・オジャラン
1995年１月24日

世界革命運動情報

BURST CITY
For Revolutionary Resistance

★連絡先　〒606 京都市左京郵便局私書箱57号
ARP
★ＴＥＬ・ＦＡＸ　０７５－７８１－１２５３
★定期購読料　10号分　３５００円
★郵便振替口座
００９２０－０－２５２９２３　ＡＲＰ